

年報
2020 年度



東京医療保健大学 立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Tachikawa Faculty of Nursing

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing
(Disaster Nursing Program)

2020 年度 年報

目次

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・	1
1. 組織図	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 学内行事	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 入試状況	・ ・ ・ ・ ・	7
4. 教職員名簿	・ ・ ・ ・ ・	9
5. 委員会活動	・ ・ ・ ・ ・	11
6. 教育活動	・ ・ ・ ・ ・	16
7. 業績	・ ・ ・ ・ ・	45

巻頭言

世界大百科事典によると、【年鑑】・【年報】とは、… 社会全般または特定分野の1年間のできごとを記録、解説した年刊形式の便覧で、将来の研究調査の便に資することを目的とする。政府機関や学会では〈年報〉ということもある。年鑑の起源はイギリスやスカンジナビア諸国で中世まで用いられた原始的な棒暦 *clog almanac* である。

本大学は東京、千葉、和歌山に5学部7学科を設置している医療系、看護学科の多い大学であるが、年報は2010年に東が丘看護学部を設置した時からスタートしている。全学には広がっていない。2014年度から東が丘・立川看護学部、立川看護学部と約10年間で少しずつ名称変更しながら現在に至っている。この間、一回も欠かすことなく毎年年報を発行してきている。しかも全体をホームページに公開してきている。素晴らしいことである。

大学の使命・役割として言われている「教育」、「研究」、「社会貢献」の3つの活動の実績を各教員から提出して集め、委員会の委員が何度か確認・修正し、整えて掲載に至っている。実際に提出している立場からすると、直ぐに一年間は経ってしまう気がするが、自己の単年度の活動記録の纏めとなり、今年は少し不足しているので、次年度は頑張らなくてはならないと自己評価に繋がり、とても整理されるシステムとして良いと感じている。

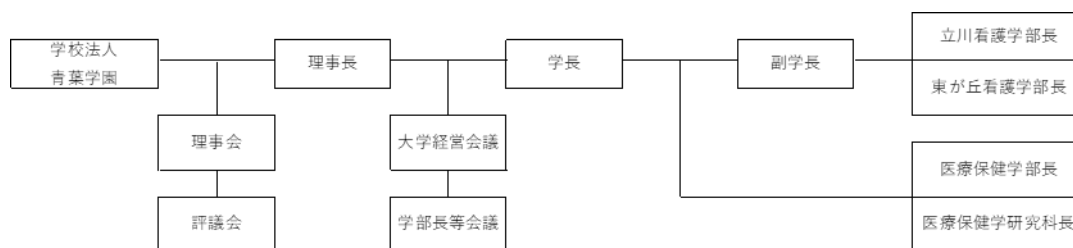
また、全教員の活動記録がそこには見える。一例を述べると、多忙さが教育によるものなのか、研究によるものなのか、社会貢献によるのか良く見えている。学内・外の委員会活動も見える化されている。兎に角、年報は教員の活動実績が良く表れており、貴重で素晴らしい記録である。

「継続は力なり」という言葉があるが、将に年報をみるとそれに尽きる。我が大学の発展の歴史が見え、教員の素晴らしさと凄さがみえる資料である。委員の皆さんの労力に対し、感謝に尽きる。

令和3年4月16日

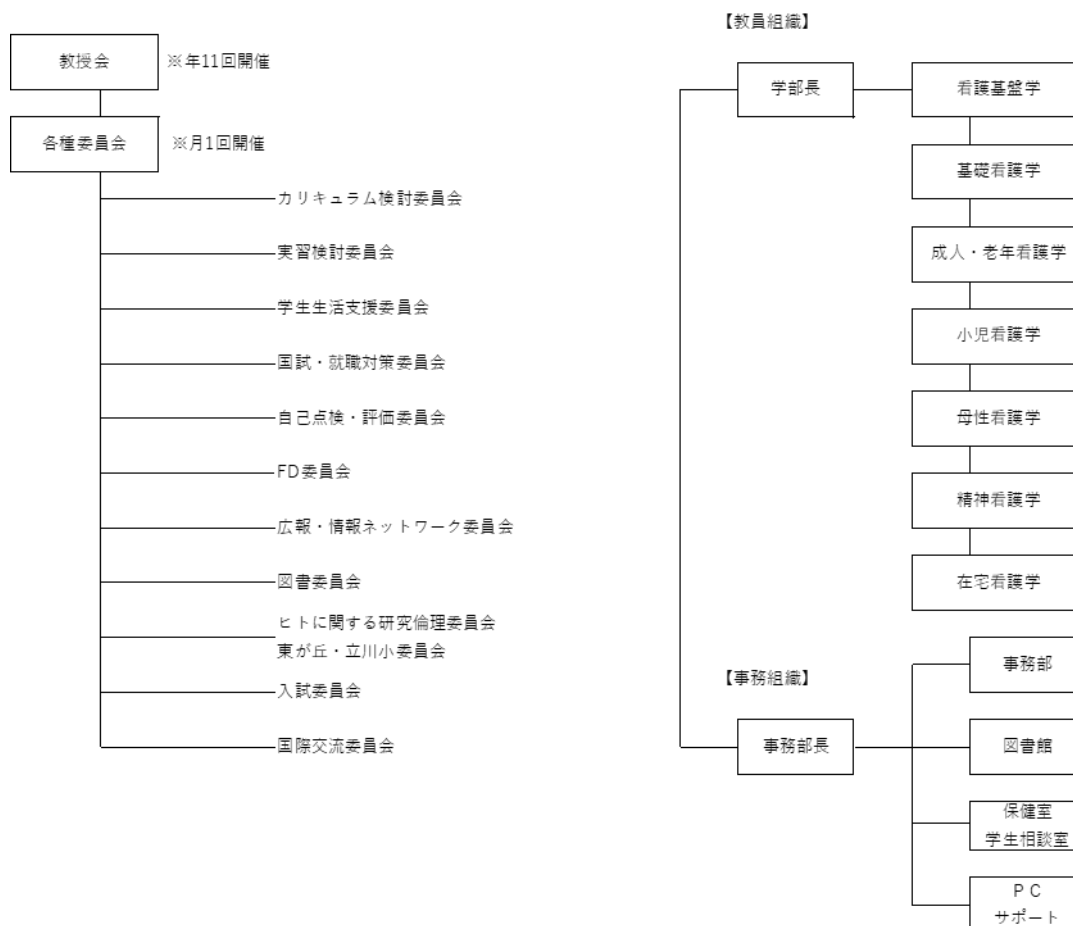
立川看護学部長 山西文子

1. 組織図



※大学経営会議：年5回開催
 ※理事会・評議委員会：年3回開催
 ※学部長等会議：年11回開催

立川看護学部の運営組織



2. 学内行事

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4月

- 1 日 学内オリエンテーション (1～3 日)、新入生
ガイダンス
- 2 日 健康診断
- 7 日 入学式 (中止)
- 6 日 前期セメスター授業開始

5月

- 7 日 新入生合宿研修(中止)
- 25 日 在宅看護学実習(～6/27)
- 29 日 WEB 学科見学会 (～6/1)

6月

- 12 日 スポーツ大会 (中止)
- 26 日 WEB ミニオープンキャンパス
(～6/30)
- 29 日 看護学体験実習(～7/3)

7月

- 20 日 看護学統合実習(～7/31)
- 27 日 WEB オープンキャンパス (～8/21)

8月

- 3 日 看護過程展開実習 (～21 日)
- 3 日 看護学統合実習 (7 日)
- 17 日 各論実習－母性看護学実習等
(～R3/2/5)
- 23 日 オープンキャンパス(中止)
- 25 日 夏季休業開始(～9/30 まで)

9月

- 4 日 災害訓練 (中止)

【 後 期 】

10月

- 1 日 後期セメスター授業開始
- 3 日 来校型入試説明会
(WEB 入試説明会～11/6)

11月

- 7 日 医愛祭(～11/8 中止)
- 15 日 学校推薦型入学試験 (指定校・公募)
- 21 日 公開講座 (立川市と共催)
- 27 日 国立病院機構病院説明会
- 30 日 老年看護学実習(～12/11)

12月

- 1 日 開学記念日
- 16 日 卒業生との懇談会
- 20 日 来校型入試説明会
- 29 日 冬季休業開始(～R3/1/3)

1月

- 26 日 一般選抜型入学試験 (A 日程)

2月

- 4 日 一般選抜型入学試験 (B 日程)
- 5 日 看護師国家試験壮行会
- 15 日 就職支援講座 (～2/19)
- 15 日 日常生活援助展開実習(～3/3)
- 18 日 一般選抜型入学試験 (C 日程)

3月

- 19 日 学位記授与式・修了式

2-2. オープンキャンパス

今年度 8 月 23 日予定されていたオープンキャンパスは、受験生および保護者の皆様の安全を考慮し中止とした。なお、受験生が進路を検討する大切な機会を損なわぬよう、本学ではオープンキャンパスをホームページで体験できる「WEB オープンキャンパス」として実施した。

【概要】

首都圏にある本学の 4 つの看護学科・キャンパスについて、動画を通して知っていただく予約制の WEB イベントです。学科企画では、各学科が皆さんへ向けて撮影・作成した動画コンテンツが盛りだくさん！今年度の入試概要や個別相談も実施いたしますので、このイベントを通して受験前の疑問を解消しましょう！

【コンテンツ】

- ・学長・学科長挨拶
- ・入試説明（2020 年度入試結果/2021 年度入試情報）
- ・各学科企画（キャンパス紹介、教員による学科紹介、模擬授業など）
- ・よくある質問コーナー
- ・個別入試相談
- ・その他

【実施日時】 2020 年 7 月 27 日（月）12：00 ～ 2020 年 8 月 21 日（金）16：00

2-3. WEB 学科見学会

【概要】

立川看護学部看護学科について動画を通してカリキュラムや学科の特徴、キャンパス内の施設等を知っていただく WEB イベントです。

【コンテンツ】

- ・大学説明・学科説明
- ・キャンパス紹介
- ・入試説明
- ・その他

【実施日時】 2020 年 5 月 29 日（金）12：00 ～ 2020 年 6 月 1 日（月）16：00

2-4. WEB ミニオープンキャンパス

【概要】

入試情報や、各学部のカリキュラム紹介や学科の特徴、キャンパス内の施設等を動画で知っていただく WEB イベントです。（予約制）

【コンテンツ】

- ・学長挨拶
- ・入試説明（2020 年度入試結果/2021 年度入試情報）

- ・大学説明・学科説明
- ・キャンパス紹介
- ・教員メッセージ
- ・Q&A
- ・その他

【実施日時】2020年6月26日（金）12：00 ～ 2020年6月30日（火）16：00

2－5. WEB入試説明会および来校型入試説明会

【概要】

首都圏4つの看護学科の入試や、それぞれの学科のことについて詳細を知ることができます。また、今年度の学校推薦型選抜については、選考方法の変更や面接のポイントについて詳しくご説明をします。

学校推薦型選抜に関心ある看護師志望の方はぜひご参加ください。

【コンテンツ】

- ・入試説明（学校推薦型選抜）
- ・看護学科説明
- ・面接のポイント
- ・その他

【実施日時】2020年10月1日（木）12：00 ～ 2020年11月6日（金）22：00

2－6. 個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

- ・国立病院機構立川キャンパス

2020年11月27日(金)、12月7日(月)

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ35名が参加。

2－7. 来校型入試説明会

下記の日程で入試説明会を実施した。

- ・国立病院機構立川キャンパス

2020年12月20日(日)

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ34名が参加。

2－8. ミニオープンキャンパス

下記の日程でミニオープンキャンパスを実施した。

- ・国立病院機構立川キャンパス

2021年3月27日(土)

高校生・保護者を合わせ延べ102組179名が参加。

2－9. 公開講座（立川市と共催）等の開催（FD 企画を含む）

① 2020 年 11 月 21 日(土) 10：00～12：00 T2201 教室

テーマ： 「うつを知ってこころの健康づくり」

～自分のこころと対話していますか？～

講 師： 田野 将尊（立川看護学部 准教授）

② 2020 年 12 月 18 日（金）～ 2021 年 1 月 29 日（金）

内容： 「SPSS の基礎 1」、「SPSS の基礎 2」

公開場所：YouTube 上の動画ファイルで公開

主な対象者：助教・助手

2－10. 学友会活動

1) スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が 6 月 12 日(金)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止となった。

2) 大学祭（医愛祭）

全学行事である医愛祭が 11 月 7 日(土)・8 日(日)に世田谷キャンパスで予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止となった。

3. 入試状況

3-1. 2021 年度入学選抜状況

概 要

立川看護学部看護学科については、入学選抜の概略は以下のとおりである。

(2021 年 3 月 31 日現在)

○立川看護学部

試験区分	試験日	定員(A)	志願者数(B)	受験者数(C)	競争倍率 C/D	合格者数(D)	入学者数
指定校推薦入試	11月15日(日)	(40) 20	(19) 32	(19) 32	(1.0) 1.0	(19) 32	(19) 32
公募制推薦入試	11月15日(日)	(40) 23	(49) 63	(49) 63	(1.2) 1.9	(41) 34	(41) 34
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月16日(土) 17日(日)	(15) 7	(173) 170	(173) 170	(2.8) 2.8	(61) 60	(2) 4
一般選抜A日程入試	1月26日(火)	(30) 15	(145) 161	(143) 157	(3.3) 2.5	(43) 62	(19) 21
一般選抜B日程入試	2月4日(木)	(50) 25	(196) 223	(164) 186	(3.1) 2.3	(53) 82	(21) 28
一般選抜C日程入試	2月18日(木)	(20) 10	(69) 74	(52) 61	(3.1) 5.5	(17) 11	(15) 4
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月16日(土) 17日(日)	(5) 若干名	(5) 10	(5) 10	(1.7) 5.0	(3) 2	(1) 0
		(200) 100	(656) 733	(605) 679	(2.6) 2.4	(237) 283	(118) 123

○ 学校推薦型選抜入試

1) 指定校推薦入試

(1) 対象

「指定校の出願要件や評定の取扱いについては、個別に指定校連絡しております。」

2) 公募制推薦入試

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2021 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が 3.5 以上の者

(2) 選抜方法

調査書(20 点)・事前課題(40 点)・面接(40 点)を総合的に評価し選抜した

注：今年度の推薦入試の選抜方法は、「集合試験を中止する」という新型コロナウイルス感染拡大予防方針に基づく特別措置により選抜方法を変更したものである。昨年までは、調査書(20 点)・総合問題(100 点)・面接(30 点)を総合的に評価し選抜しており、来年度以降もこれに準じて選抜が行われる予定である。

○ 一般選抜型入試

1) 一般入学試験 A日程

(1) 試験科目

必須科目 英語 (100 点)

選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学
生物基礎・化学基礎
の4科目から1科目選択 (100 点)

2) 一般入学試験 B日程・C日程

(1) 試験科目

必須科目 英語 (100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎
の5科目から2科目選択 (各 100 点)

3) 大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

(1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】 (200 点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、
生物基礎・化学基礎
の5科目から2科目利用 (各 100 点)

注：選択科目で3科目以上受験している場合は、高得点の2科目を採用
理科を2科目選択する場合は、「生物」「化学」の組合せのみ可

4. 教職員名簿(2020.4.1 現在)

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	立川看護学部長	山西 文子	副学長/教授	H 25.4.1 採用
	看護基盤学	高木 晴良	准教授	H 26.4.1 採用
		堀田 昇吾	講師	H 25.7.1 採用
		今井 淳子	助教	H 30.4.1 採用
		三浦 由紀子	助教	H 28.4.1 採用
	基礎看護学	伊東 朋子	教授	R 2.4.1 採用
		岩満 裕子	准教授	H 26.4.1 採用
		栗林 好子	助教	H 26.4.1 採用
		松山 妙子	助教	H 29.6.1 採用
		山田 泰子	助教	H 29.4.1 採用
	成人・老年看護学	青木 和恵	教授	R 2.4.1 採用
		福田 淑江	准教授	H 26.4.1 採用
		藤村 朗子	准教授	H 27.4.1 採用
		岩渕 起江	講師	H 24.4.1 採用
		櫻井 敬子	講師	H 29.4.1 採用
		折元 美雪	助教	H 28.4.1 採用
		苅田 明子	助教	H 29.4.1 採用
		大場 久美	助手	H 31.4.1 採用
		泥谷 朋子	助手	R 2.4.1 採用
	小児看護学	久保 恭子	教授	H 28.4.1 採用
		穴戸 路佳	講師	H 31.4.1 採用
		武居 尚子	助教	R 2.4.1 採用
	母性看護学	衣川 さえ子	教授	H 29.4.1 採用
		黒澤 範子	講師	H 29.4.1 採用
		吉田 亜希子	助教	H 27.4.1 採用
	精神看護学	村松 仁	教授	H 31.4.1 採用
		田野 将尊	講師	H 27.4.1 採用
		小川 賀恵	助手	H 31.4.1 採用
	在宅看護学	桜井 礼子	教授	H 27.4.1 採用
		テイラー 栄子	講師	H 29.4.1 採用
		小山 珠美	助教	H 27.4.1 採用
		吉川 加奈子	助教	R 2.4.1 採用

注:「東」は東が丘・立川看護学部専任、無印は立川看護学部と東が丘・立川看護学部の兼任

事務職員**役職****氏名**

部長	利光 重信
部長代理	内田 智明
主任	上山 淳
職員	細井 智世
職員	大隈 瑠美
図書館司書	町田 玲彦
図書館司書	長坂 由美
図書館司書	伊藤 梓
図書館司書	宮崎 千晶
保健室・相談室担当	原田 直美
保健室	清水 容子

5. 委員会活動

『自己点検・評価委員会』

構成員

高木晴良(委員長)、久保恭子(副委員長)、小山珠美、吉田亜希子、内田智明

活動内容

2020 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、令和 1 年度の年報を編集・作成し、WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/htkango/pdf/index/higashigaoka-annual_r1.pdf

『FD委員会』

構成員

高木晴良(委員長)、久保恭子(副委員長)、小山珠美、吉田亜希子、内田智明

活動内容

助手・助教を主たる対象として、以下のFD企画を企画・開催した。

(今年度は、Covid-19 の感染拡大防止のため、動画配信のみを行った)

12 月 18 日～1 月 29 日「SPSS の基礎 1、2」(高木 晴良)

(その後、3 月 31 日まで視聴期間を延長)

『入試委員会』

構成員

構成員は非公開としている。

活動内容

立川看護学部の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

『看護学科カリキュラム検討委員会』 (災害看護学部会)

構成員

桜井礼子(委員長)、高木 晴良(副委員長)、青木 和恵、伊東 朋子、衣川 さえ子、
久保 恭子、村松仁、山西文子、利光重雄、大隈 瑠美、上山 淳(事務)

活動内容

本委員会は、教育の質向上を目指し、年間実施計画に沿って以下の活動を行った。今年度は COVID-19 の影響により、年間を通して授業形態の変更や時間割の調整が必要となったが、教員および教務との協力により、今年度のカリキュラムを実施することができた。

1) カリキュラムの運用について

4 月当初から COVID-19 の影響により、前期はほとんどの授業が Zoom を用いた対面またはオンデマンド授業となった。学生個々の Web 環境を確認するとともに、効果

的な授業が実施できるような後期は 1 学年を 2 クラスに分けて対面授業と遠隔授業とを組み合わせ実施し、1 年次生は 3 月まで授業が延長されたが、予定のカリキュラムを終了することができた。

2) 成績・進級等の学生の成績評価について

1～3 年次生の進級、4 年次生の卒業の判定について、進級要件および卒業要件に従い資料を教授会に提示し、承認を得る手続きを行った。

3) 教育環境の整備（教材・教具）について

新設された第 2 別館を含む感染対策のための各教室の環境整備を行った。また、第 1 実習室（本館）、第 2 実習室（第 2 別館）は、実習室 WG メンバーを中心に、物品収納等の検討と年 2 回の実習室整備を実施した。

4) 指定規則の変更に伴うカリキュラム改訂

学部の教育目的である「地域から信頼される看護師の育成」に基づき、現行の授業評価を行い、カリキュラム改訂 WG を立ち上げて、1 年間をかけてカリキュラムの検討を行った。最終的に、卒業要件を 129 単位から 130 単位とし、新規に 3 科目、『地域・在宅看護論』（専門領域）を 1 年次から配置するなどのカリキュラム改訂を行った。

『実習検討委員会』

構成員

藤村朗子（委員長）、田野将尊（副委員長）、久保恭子、桜井礼子、岩渕起江、穴戸路佳、堀田昇吾、松山妙子、三浦由紀子、吉田亜希子、利光重信（事務部）、内田智明（事務部）、細井智世（事務部）

活動内容

本委員会は、東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）および立川看護学部の教育の質向上に向け、看護学実習指導体制の整備に関する以下の活動を実施した。

1. 看護学実習計画

2020 年度、2021 年度の実習計画を策定した。本年度 COVID -19 により実習形態の変更が生じたため、各領域の実習実施状況について共有を図った。

2. 看護学実習施設に対する説明会

COVID-19 により開催を中止し、「立川看護学部開設のご案内」を各施設に郵送した。

3. 看護学実習連携会議

災害医療センター、村山医療センター、共済立川病院のワーキンググループメンバーと共同し、第 40 回日本看護科学学会学術集会にて発表・交流集会を実施した。

4. インシデント対策

看護学実習のインシデントは 1 件であり、患者に直接的な影響がなかった。

5. 看護技術経験表

2020 年度卒業生 97 名を対象に 178 項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。

各領域で到達度向上に取り組んだ結果、到達度低水準項目（60%未満）は14項目から6項目に減少した。また、次年度の内容を検討し、2項目の削除、ポートフォリオの追加を行うこととした。

『学生生活支援委員会』

構成員

村松 仁（委員長）、藤村朗子（副委員長）、岩満裕子、岩渕起江、黒澤範子、櫻井敬子、苅田明子、小川賀恵、山田泰子、利光重信（事務部）、内田智明（事務部）、大隈瑠美（事務部）、清水容子（保健室）

活動内容

今年度は、COVID-19 の対応のため、従来行ってきた新入生合宿研修（学科プログラムの企画運営）、大学祭（医愛祭）・スポーツ大会、サマーコンサートが中止となったことから、活動内容が大幅に変更となったが、学生生活に関する支援として、保健室担当者との情報共有、コンタクトグループミーティングの企画運営、卒業関連事業への支援、学籍変更に関する対応は行うことができた。

コンタクトグループミーティングについては、感染対策を講じて ZOOM や小グループに分けて実施するなどの工夫を行い、後期に1回開催した。学生からは、少人数でも対面でのミーティングが良い、引き続きミーティングを実施して欲しいという希望が多く聞かれたことから、次年度に向けコンタクトグループミーティングの運営方法について検討をしている。

卒業関連事業への支援としては、各卒業研究ゼミに学生委員の選出を依頼し、卒業アルバム撮影に関する各種調整や、卒業を祝う会が中止となったことを受け、各教員に卒業生へのメッセージの依頼などを行った。

『国家・就職対策支援委員会』

構成員

岩満裕子（委員長）、福田淑江（副委員長）、高木晴良、田野将尊、櫻井敬子、黒澤範子、栗林好子（前期）、菅野由貴子（後期）、今井淳子、吉川加奈子、利光重信、内田智明、上山淳、細井智世

活動内容

国試に関する目標は、継続して「看護師国家試験全員合格」とし、就職においては、就職・進学率100%を目指し、支援を実施した。

1) 国試対策講座、業者模擬試験計画の立案・実施

1～3年生に対してのガイダンスは、各学年担当者がこれまでの傾向から課題事項を抽出後、国試対策問題・講義を含めた内容を検討し ZOOM にて実施した。4年生には、Webを含めた業者模擬試験を各6回（1回は無料）実施した。12月の教員による補講、ゼミによる支援、国試対策問題提示解説のメール配信、ZOOM での弱点分野の講義等も本年度は実施。学習強化が必要な学生は委員の個別指導で対応した。既卒者へも該当するゼミと委員会で支援した。

2) 就職支援

従来通りの支援は継続し、次年度の目標として卒業後の支援を見据え、今年度は既卒者へのアンケート調査を実施した。コロナで予定していたホームカミングは実施できなかったが、次年度は実施できるように計画していく予定である。

『図書委員会』

構成員

伊東朋子(委員長)、衣川さえ子(副委員長)、村松 仁、テイラー栄子

司 書：町田玲彦、伊藤 梓

活動内容

COVID-19 感染症対策の中、図書館の開館時間、休館日の変更等を図書館ホームページ上で公開するなど、利用者、特に学生への利便性の向上を視野に入れた活動に勤めた。

1) 図書委員会予算にて、国試・就職対策支援委員会へ看護師国家試験問題集の購入、及び関連図書の補充を促した。

2) 図書の除籍・廃棄

立川図書館における除籍・廃棄の該当書籍について全教職員の引き取り希望を調査し、旧版等を見直し、新規導入図書のための配架スペースを確保した。

3) 月次報告の作成

立川図書館における月次統計として、利用実績および契約データベースへのアクセス状況を月次報告として取りまとめた。

4) Web 会議、メール稟議等の実施

COVID-19 感染症対策の中、可能な限りメール会議、Web 会議として実施し、効率的な委員会活動とした。

『広報・情報ネットワーク委員会』

構成員

青木和恵(委員長)、田野将尊(副委員長)、穴戸路佳、今井淳子、折元美雪、山田泰子、利光重信(事務部)、細井智世(事務部)

活動内容

本委員会は、東が丘・立川看護学部(災害看護学コース)および立川看護学部の広報活動の充実を図ることを目的とし、以下の活動を実施した。

1. 大学案内

1) 2021 年度大学案内の作成、活用を行った。

2. オープンキャンパス・入試説明会・個別相談

・ COVID-19 への感染予防対策を徹底し、以下の活動を実施した。

1) Web オープンキャンパス、Web ミニオープンキャンパスの企画・コンテンツ作成の実施。

2) Web 個別見学会および 2 回の来校型個別見学会の開催。

- 3) 学校推薦型入試説明会および一般選抜型入試説明会の開催。
- 4) 新年度受験生向け入試広報イベントの開催。
3. 出張講義
 - 1) 東京都立晴海総合高等学校にて出張講義を実施した。
4. ホームページ
 - 1) 立川看護学部のホームページを更新した。
5. その他
 - 1) 学報「こころ」を 2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動を行った。
 - 2) 立川市と本学の共催イベントや学生消防団の活動、立川市発刊物における本学広告掲載の周知を行い、立川看護学部の PR 活動を行った。
 - 3) トランスジェンダーの受験希望者に向けて、立川看護学部における配慮事項を検討した。

『国際交流委員会』

構成員

伊東朋子(委員長)、福田淑江(副委員長)、黒澤範子、三浦由紀子

活動内容

新年度開始とともに、オーストラリア研修、ハワイ研修について 1 年次生へのインフォメーションを行った。

1) オーストラリア研修

9 月の現地研修は困難であり、オンラインでの研修・交流をグリフィス大学と調整し、5 月 21 日提携合意書(電子媒体)が締結された。その際に看護、医療情報、医療栄養の 3 領域の学生にとって興味ある内容となるよう配慮することが要望として出された。

9 月 23 日から 3 日間のオンライン研修では参加学生 18 名の内、本学部からは 1 年次の男子学生 1 名、女子学生 1 名が参加し、オンラインホームビジット、ホストファミリーとの交流を行った。事後アンケートでは初日は慣れるのに苦労している様子も見られたが、次第に慣れて、積極的に口頭やチャットによる参加がみられるようになり、期間をもっと長くしてほしいとの回答が大半であり、満足度も高かったものと思われる。

2) ハワイ研修

3 月のハワイ研修に関してはハワイ大学からは今年度はオンラインも含めて実施は難しいとの回答があり、再度、グリフィス大学とのオンライン研修を 3 月 17 日から 7 日間として、学長裁量経費からの研修費用補助もあり、参加人数は学生 5 名、教員 6 名の 11 名で実施予定である。

6. 教育活動

なお、立川看護学部科目(1年次生)は、科目名の後に(立川)と明記して区別した。

【看護基盤学領域】

教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず、学際的な広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。看護学以外の視点も重要視し、人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指している。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

本年は、コロナ禍で緊急事態宣言が出された関係で、対面講義が難しい状況であったが、学生に対して適切なサポートを行いながら、4月初旬からZoomによる遠隔リアルタイム講義を行った。

1) 自然科学の基礎(立川): 1年次前期(リアルタイム遠隔講義)

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生の個別の質問に応じ、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想されるため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指している。

入学してほぼ最初の講義であったため、Zoomによるリアルタイム遠隔講義のための接続テストを最初に行った。その後は、比較的スムーズにリアルタイム講義を行うことが可能であった。回線トラブルが生じた学生のために、講義動画も用意していたが、実際の利用頻度は低かった。

なお試験は、Google Formを用いて遠隔で行ったが、事前の操作説明や不正行為対策などをきちんとしたため、全体として進行はスムーズであった。

2) 公衆衛生学: 2年次前期(リアルタイム遠隔講義)

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

毎回 desknet's で課題を提示し、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認する

とともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。レポートの文字数を提示し、さらに提出期間として数日間の期間を設定したため、昨年までの講義後のレポートに比べて、より深い内容のレポートが多く、より効果があった。なお、質問の返信やレポート内容の訂正等を desknet's の返信機能で対応したので、学生からも分かりやすいと好評であった。

なお Google Form を用いて遠隔で終講試験を行ったが、不正行為対策などをきちんとしたことと、昨年までもマークシート試験だったため、試験自体はスムーズであった。

3) 医療・看護情報学の基礎：2 年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良

情報化社会と言われる現在、身の回りには様々な情報が溢れている。特に医療や看護の世界では一般の人とは異なる性質の情報が囲まれている。そこで、「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知り、その「いかし方」と「まもり方」の両方について学ぶ必要がある。この科目では特に「まもり方」を中心に解説した。

「医療・看護情報の特殊性を理解する。」「情報倫理と医療倫理を確認する。」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱いを理解する。」「チーム医療における情報ネットワークを理解する。」の 4 つを大きな目標として講義を行った。

毎回 desknet's で課題を提示し、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。レポートの文字数を提示し、さらに提出期間として数日間の期間を設定したため、昨年までの講義後のレポートに比べて、より深い内容のレポートが多く、より効果があった。なお、質問の返信やレポート内容の訂正等を desknet's の返信機能で対応したので、学生からも分かりやすいと好評であった。

なお Google Form を用いて遠隔で終講試験を行ったが、不正行為対策などをきちんとしたことと、昨年までもマークシート試験だったため、試験自体はスムーズであった。

4) ボランティア論：2 年次後期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔GW＋遠隔レポート発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

ボランティア活動に対する関心が高まり多様なボランティア活動が展開されている。このような現状の中で保健医療の専門職としてボランティア活動に対する理解を深めることが必要である。多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とした。

今年度は、コロナ禍の影響で実際のボランティア活動に参加できなかったため、「各グループがそれぞれのテーマの下でボランティア活動の計画を立て、広報担当としてプレゼンをする」という企画を行った。遠隔のグループワークにもかかわらず、主体的に話し合いが行われ、プレゼンの内容も工夫に富んだイベント計画が練られており、学生にも好評であった。そのため、来年以降も授業計画に取り入れることを予定している。

5) 臨床検査学演習：2 年次後期（リアルタイム遠隔講義＋対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、伊東丈夫(非常勤)

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。組織学的検査、心電図、肺機能検査、血液検査、尿検査、放射線検査、染色体検査のそれぞれについて、遠隔による講義を行った後、小グループに分かれ、学内で対面演習を行った。昨年までは 20 人前後のグループによる演習であったが、今年はコロナ感染症拡大予防の観点から、5～6 人で 1 つの演習テーマを 30 分前後で行い、3 つのテーマ(放射線、心電図、血液・尿検査)をローテーションするという形式に変更した。

レポートの提出には WebClass を利用することで、遠隔からでも円滑に行うことが可能であった。なお、組織学的検査に関しては、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。

6) 臨床薬理学演習：2 年次後期（リアルタイム遠隔講義＋対面演習）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

1 年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況(年齢、性別、生理的状態など)による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などについて、随時、解剖生理学や疾病の成立の知識を確認しながら概説した。

今年度は対面演習として、「点滴静脈内注射を行っている患者への側管からのワンショット静脈注射をする演習」を通して、与薬の一連の流れを実施し、患者が安全に安心して薬物治療を受けるために必要な看護について考えさせた。学生は、薬剤の作用・副作用から観察項目を考える必要性や、ダブルチェックの必要性などを身を持って体験できるということで好評だったため、来年度以降も継続する予定である。

7) 看護研究の基礎：3 年次前期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔GW＋遠隔レポート発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子

EBNにおける看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究の意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、論文の種類と構造など基本的な知識を習得することを目的とした。さらに、実際に自分が興味を持ったテーマに沿った和文献をキーワード検索し、グループでクリティークして、その内容を発表するという形式で行った。

今年度は、コロナ禍のために対面のグループワークができなかったことから、Zoom のブレイクアウトルームを利用して、遠隔でグループワークを行ったが、予想以上に活発に学生間の意見交換などができていたようである。

8) 実用医療英語：3年次前期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔GW＋遠隔レポート発表会）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、酒井一夫（非常勤）

英語論文の構造や医学英語に独特の表現などを理解することで、長文読解能力及び情報収集能力の向上を図るため、グループで英語論文を選択して読解し、その内容を発表するという形式の講義を行った。

「3年後期の卒業研究や英語論文のクリティークの際に役立つような基本的技術（英語論文の検索や長文読解力）が習得できる」ということを目標に、テーマ別のグループに分かれた後で、テーマに沿った論文を自分たちで検索し、グループ内で講読する論文を取捨選択するというプログラムを取り入れている。今年度は和文献で同様の手順で発表を行っていたため、よりスムーズに進行していたようである。「英語論文の構造を理解する」という目標もおおむね達成できていた。

今年度は、コロナ禍のために対面のグループワークができなかったことから、Zoomのブレイクアウトルームを利用して、遠隔でグループワークを行ったが、予想以上に活発に学生間の意見交換などができていたようである。

9) 国際看護学：3年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、桜井礼子、山田泰子

進展するグローバル化と健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的とし、グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実践について学習し、今日的な課題について考える内容の講義内容とした。

実際の健康問題に関する健康指標を調べてグラフ化し、国際協力に実際に関わってきた教員の体験をもとにした教材を用いたことで学生の関心が高まり、身近なこととして認知し、国際看護を考える機会となった。

今年度はコロナ禍のため無償で映像教材配信サービスが利用できることを活用し、授業内提示や課題としての視聴を取り込んでみたところ、好評であった。

10) 災害看護学Ⅱ：3年次前期（リアルタイム遠隔講義）

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、三浦由紀子、福田淑子、桜井礼子、高以良仁（非常勤）

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC災害（核(nuclear)、生物(biological)、化学物質(chemical)による特殊災害)に対する基本的知識・技術についても紹介した。

昨年までは、二次トリアージと避難所運営に関するシミュレーション(HUG)を演習として取り入れていたが、本年度はコロナ禍のため、二次トリアージのみ時間短縮バージョンでDMAT隊員による演習を行った。学生からは、講師による丁寧な指導と根拠を示してのアドバイスに感動したとの感想が多くあった。避難所運営シミュレーションに関しては、現状の避難所の様子を提

示して、問題点と解決策を見出す課題学習に変更した。具体的でよく練られた解決策を導き出している学生もあり、来年度は学生間で共有できる場を設けることを検討している。なお、講義時間以外でも、実際に避難所運営シミュレーションを体験したいという学生が多かったため、コロナが少し落ち着いた年末に、希望者にのみ補習として対面演習を行ったところ、やはり課題学習だけでは得られない効果が得られたようである。

11) 英語論文のクリティーク：3 年次後期（リアルタイム遠隔講義＋遠隔＆対面レポート発表会）

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。

各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

12) 看護学統合実習：4 年次前期

高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4 年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。

実習は臨地実習（90 時間）と災害看護学実習（45 時間）からなっている。臨地実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は 4 施設で 7 月に実施する予定であったが、コロナ禍のため 1 施設を除き、臨地実習が実施困難となり、学内実習等に変更になった。臨地実習で習得する予定であった「複数患者受け持ちによる優先順位の考え方」「看護師長やリーダーによる看護マネジメントの実施方法」「夜間看護の特徴」などについては、各領域がシミュレーションなどを駆使して、学生に提示した。また、国立病院機構災害医療センターの看護部長、看護教育担当、看護師長、看護副師長などを招き、遠隔で講演や質疑応答を行ってもらうことで、少しでも看護マネジメントの現場の様子を学修できるように工夫した。Zoom による遠隔講義のためか、予想以上に活発な質疑応答がなされ、臨地実習で体験できない分もしっかり学びたいという積極的な学習姿勢が伺えた。

災害看護学実習は、8 月第 1 週の予定を延期し 9 月中旬に遠隔シミュレーションを中心にして行った。被災現場におけるマストリッジと多数傷病者発生時の病院内対応に関するエマルゴシミュレーションを遠隔で行ったが、国立病院機構災害医療センターの DMAT メンバーから全面協力を得られたことで、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能や、各所における責任ある行動及びリーダーシップについて学修することができていた。

13) 卒業研究：3 年次後期・4 年次前期・後期

山西文子、高木晴良、その他全教員

10 名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場で行う看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2020 年 11 月 3 日には、Zoom を用いて「2020 年度卒業研究発表会」が、3・4 年生及び全教員参加の下で開催され、学生同士の質疑応答も予想以上に活発に行われた。

各グループのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

- 東京都内に在住する高齢者の自然災害に対する情動的備えとソーシャル・キャピタルとの関連
～ソーシャル・キャピタルの「ネットワーク」に焦点を当てて～

重田友理花・乙子愛美・岡崎みなみ・小野葵・柴田麻未・相馬弥佳・高橋琴乃・高橋美衣・
野崎未来・矢後杏奈・山田麻友香

- 災害時における精神障害者・専門職種が求める支援の在り方に関する文献研究

高田夢瞳・三浦珠奈・井手友加里・植村友香・米谷佳夏・鹿本清風・篠原ゆうき・島田友里恵・
鈴木唯・双木琴音・水井遥

- 大規模災害を想定した糖尿病療養者が食事療法を継続するための防災意識と備えの実態調査
及川さとこ・小柳元・青木嵩弥・朝香真子・草間洋平・小林宣愛・笹村歌鈴・下村美月・

根本一輝・長谷川有希

- 看護大学生を対象とした災害ボランティア活動への参加意欲と災害看護に関する教育との関連の検討

小澤導稀・田中ひかり・今村壮貴・大日向美優・奥山絵梨・塩原晶銀・中島里紗・林香歩・
深澤夢宇馬・福岡智・吉川実来

- 災害避難における液体ミルクの使用に対する乳児を育てる母親の認識

石原真実・仁藤未菜子・井上美樹・松岡リカ・石川舞・緒方瑠輝・木下うらら・倉持真希・
島田寛子・船木優帆

- 感染拡大予防に対する知識・意識・行動と社会的自己制御尺度の関連

ー COVID-19 による緊急事態宣言発令時ー

桑澤里彩・井上祐華・入澤法子・大熊彩香・川南美春・栗山瞳・後藤宇慧・斉藤瑞稀・
白井麻央・杉村江莉佳・見山莉奈

- 避難所運営時の段ボールベッドの導入状況に関連する要因の検討

～平成 30 年から令和元年の大規模災害での指定避難所運営経験者を対象とした調査～
大塚風舞希・天野未悠・大森清茄・尾崎未那美・原由佳・藤巻美優・前知里・山中沙耶・

山梨貴和子・渡邊彩・綿貫杏

○養育者が子どもに行った新型コロナウイルス感染症予防対策と生活の変化

加賀小百合・高橋菜桜・飯島未彩・池田愛恵・市原沙弥香・伊藤愛望里・小原綾夏・下重茜梨・
野尻茉希・平柳結子・柳田瑠奈

○CBRNE 災害における看護師の認識と備えに関する研究

ークリティカルケア領域の看護師を対象とした実態調査ー

香西慎司・天杉さくら・新井寧々・遠藤尚弥・木村奈々・佐藤玉果・嶋由紀子・谷口夏菜・
谷澤彩乃・南出麻智佳・矢口碧

【基礎看護学領域】

教育方針

新年度、当初よりコロナ禍の中で開始された教育活動であったが、昨年度より引継いだ「健康上の問題を持つ人の基本的ニーズの充足を目指した看護」を理解できることを看護基礎教育の基盤に置き、基礎看護学領域一丸となって、看護学の学習の必要性を理解できる意欲的な学生の育成を目指して取り組んだ。具体的には看護について様々な視点から学び、看護師を目指す構えができることを目標としている。さらに、平時のみならず災害時に必要となる基本的知識も含めた内容を教授する。講義と演習を通して看護行為の意味づけを各自が考え、知識と技術がリンクできる教育構造を構築する。臨地実習の場を通し、振り返り自ら考え、今後の学習の必要性を理解し、学生が看護の視点での観察力と他者理解の重要性が育成できるよう、基礎の各科目とリンクした思考の構築を目指す継続的な自己学習ができる学生の育成を教育方針とした。

1) 看護学概論（立川）：1年次前期

伊東朋子

「看護とは何か」を考えるに当たり、看護の歴史、日本における健康に関する認識と医療の変化・発展、及び法律を含めた政策の変化など時代の流れの中で、理解することを通して、考えられるよう講義内容を構築した。看護の基本概念である「人間、健康、環境とは何か」について、ナイチンゲールとヘンダーソンを中心とした考え方やその理論家の生きた時代背景を含め、看護の変遷が理解できるように講義した。ヘンダーソンに関しては、看護過程展開時に繋がられるように教授した。看護の喜びが感じられるように具体的な事例も含めるとともに、平常時と災害時の違いも含め講義内容を構築した。次年度は、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、専門看護学への興味と感心を高められることを目的として教授していく。

2) 看護倫理（立川）：1年後期

岩満裕子

倫理的問題は、1年生には何が倫理的問題なのかを理解することが困難である為、身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題とは何かが理解できるよう教授した。倫理的問題を理解したうえで、基本である世界医学界宣言と看護師の倫理綱領の内容が理解できるよう読み砕き、倫理観が深められるように実施した。医療倫理に関しては、トム・L・ビーチャムらの記した「生命医学倫理」を活用し、事例を取り上げ倫理的問題がどこにあるか考える時間とした。倫理的問題の解決法としては分析ツール(JONSENの窓、4ステップモデル)を説明し、実際に事例分析を個人で検討後、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。最後は、各自が災害時に起こりうる倫理的問題事例を提示した。最終レポートとして、コロナ情勢も含めた身の回りの倫理的問題とそれに対する判断を明示することを課題とし評価した。次年度も、医療における倫理的問題の事例を読み砕くことで理解できるように教授し、倫理問題を検討するための看護倫理の視点教育を実施する。

3) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）（立川）：1年前期

伊東朋子、岩満裕子、菅野由貴子、栗林好子、松山妙子、山田泰子

当該科目の目標は科学的根拠に基づく看護技術の基本的な知識や特徴を理解し、さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶことにある。特に本年度、前期はコロナ禍のため、学内での演習が遠隔授業形式となり、学生の技術習得では次のような点を考慮しながらの実施となった。看護実践において、対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら、援助を実施するための基本的知識・技術・態度を学習することを目的とした。演習では、事前に講義の復習とナースングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、技術内容をイメージさせた。自己学習内容を活かした技術への理解を深められるよう、教員は解説を付けた動画等を提示した。また遠隔授業上でも適宜グループワークを取り入れ、討議や発表をすることで学生相互の学びが深められるように進めた。対面授業が可能となることが予想される後期の関連科目の授業時において、補足説明を取り入れながら根拠・留意点を振り返り、学びを整理して、講義内容を統合することを目指した。

4) 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）（立川）：1年後期

菅野由貴子、伊東朋子、岩満裕子、松山妙子、山田泰子

治療・処置における援助技術は、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。そのため、講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授し、演習では講義で得た知識を活用して根拠を明記した手順書を作成してから実践できるような構成とした。演習中もグループワークを取り入れながら、知識と技術が統合できるよう工夫した。また、前期に看護実践技術論Ⅰで実技が行えなかった技術項目の実施、留意点の確認ができるよう補講を行うと共に日々の演習の中で随時学ぶ機会が得られるよう工夫し、技術の学び・習得が無理なく行えるよう配慮した。対面での演習は、3

密回避のため昨年度よりも1グループあたりの学生数を少なくし1学年3分割で実施したため、デモンストレーションの時間を短縮しながらも各グループでの実技指導に重点を置き、技術演習時間を確保できる内容とした。演習時間外の自己練習時間を確保し、日常生活援助実習に臨める体制を整え、学生の自律的な学習の支援を行った。

5) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）（立川）：1年後期

伊東朋子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、既習の日常生活援助に関する知識や技術を統合・活用して、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。

グループワークを通して、患者の個別性に配慮した援助内容・方法の工夫と援助計画の立案、看護技術の原則の個別性への適用方法を検討し、技術の統合をについて学ぶために、看護実践技術論Ⅰでの学習到達状況を考慮した事例を提示し、援助計画の検討、援助の実施を行った。実施後の振り返りを行うと共に教員によるデモンストレーションを行うことで、自らの援助計画とその実施の評価をより具体的に振り返ることで、個々の技術の提供ではなく、技術の統合の大切さ、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学び得ていた。次年度以降も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向けて、講義・演習内容を検討していく。

6) ヘルスアセスメント（立川）：1年前期

岩満裕子、伊東朋子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

対象の健康問題を把握するために必要な基本的看護技術となる観察、コミュニケーションの基本技術、バイタルサイン測定を習得する講義・演習であるがコロナの状況で実施できない部分は、ナーシングスキルを活用し、画像によるイメージトレーニングと補足説明、復習機能も活用し教授した。登校できるようになった段階で、講義時間外も活用し、血圧測定の修得のため指導した。コミュニケーション演習は後期の模擬患者演習を活用し教授した。バイタルサインから判断する看護援助の演習では冷罨法を実施し、対象とのコミュニケーション技法や効果的な体温調節の援助方法を検討し、主観的情報と客観的情報による評価の視点も含め教授、後期の看護過程と看護方法論につながる学習としたことは看護展開における情報収集と評価の視点につなげることができた。次年度は、形骸的なバイタルサイン測定にならないように根拠と目的を理解し、実習につなげられるように測定後の報告内容を網羅した今年度コロナで実施できなかった予定していた演習を実施する。

7) フィジカルアセスメント（立川）：1年後期

岩満裕子、伊東朋子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

看護判断する上で最も基本となる看護師として必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について、運動系・感覚系・中枢神経系・循環器系をそれぞれ系統別に教授し、具体的な臨床でよく見る疾患の特性を重視するとともに、国試対策も見据えて講義内容を構築した。更に、臨床

現場ですぐに必要な知識と技術を中心に講義内容を組み立てると共に、学生がフィジカルアセスメントに興味を持つように人体の反応や誰にでも聞き分けられる聴診及び打診について教授した。肺と心音の聴診については、健康人の聴診は学生間で聞き分けられるよう実施し、疾患を伴った聴診については、モデル人形の肺音と心音を用いて演習を実施した。災害時や急変時の対応についても最終回で教授した。次年度は、今年度同様に実施するが、疾患を持った患者を総合的に観る視点が体得しにくい学生が多いことが実習を通し、判断できたので、次年度は、実習で役立つ系統別だけではなく、統合的に捉えたフィジカルも取り入れた教育内容とする。

8) 看護過程と看護方法論（立川）：1 年次後期

菅野由貴子、松山妙子、伊東朋子、岩満裕子、山田泰子

看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、専門的な知識を用いて看護を実践するための方法である看護過程について、その概要と意義を理解し、看護実践における看護過程の展開に必要な基本的な知識・技術・態度について教授した。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、15 回のうち 13 回がオンライン授業となり、2 回が対面によるグループワーク発表会の授業形態となった。Web Class と desknet's を活用しながら、個人・グループ課題を主とした積み上げ学習を行った。講義冒頭では、課題のフィードバックを行い、全体共有することで理解の底上げを図った。講義で使用した記録用紙は、実際に実習で用いる記録用紙を使用することにより、記録への関心・理解も高まり、学生の主体性に繋げることができた。今年度のグループ発表会の形式は、新型コロナウイルス感染症の影響から、対面発表と Web 発表のハイブリッド式を採用した。ハイブリッド式を採用したことによって、Web にアップされた全てのグループの発表内容を確認することに加え、対面による教員からの生のコメントによる学びもあり、学習の充実を図ることができるよう尽力した。

9) 看護学体験実習（立川）：1 年次前期

伊東朋子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

座学で学んだことを実際の医療機関で見学実習を通し医療機関の理解を深める実習であるが、コロナの影響で病棟実習は実施できなかったため、Zoom による学習となった。事前に、実習病院である災害医療センターと村山医療センターの看護部の協力を得て、ビデオ撮影し、医療施設がどのような機能を保有し、如何なる能力を持った職員が、患者に何を提供しているのか、病院の機能と形態について録画および Zoom での講話を頂き、病院組織の理解が深まり、病院は様々な専門職種の人たちの力で成り立っていることを学ぶ機会とした。更に、学生同士で感じたことを話し合う場を持つことでお互いに理解を共有できるよう実施した。次年度は、更に、実習施設側と目標の共通理解を深める検討の機会を持ち、病院という環境への理解が深まると共に、今後の実習に役立つ知識や看護師を目指す意欲に繋がる実習とする。

10) 日常生活援助展開実習（立川）：1 年次後期

岩満裕子、伊東朋子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子、三浦由紀子、折元美雪、
吉田亜希子、荏田明子、今井淳子、大場久美、小山珠美、泥谷朋子、吉川加奈子

コロナの影響で国立病院機構災害医療センターでの実習が行えなくなり国立病院機構村山医療センターで学生全員を受けて頂いた。密を避けるため、4 クールに分け、1 クール 30 名程度で学生を配置し実習を行った。長期間での実習は困難であり、学生は 2 日間のみ臨地実習し、残りの 1 日は自宅学習で情報をまとめ日常生活上の問題を明確にし、援助計画を立案してくる。残りの 2 日間で計画修正および教員または学生が患者役となり実施・評価を行う実習に変更し実施した。実習前に、模擬患者演習を学内で実施し実習に挑んだ。その効果もあり、ベッドサイドへ行くことはできており、バイタルサイン測定も実施できた教育効果が見える実習であった。学生は実習を通して技術練習の必要性など、今後の課題が意識できた実習であった。更に良かった点は、2 日間と短いため、カルテを見ずに患者自身から情報を取ることに練習ができたことである。次年度は、臨床側と実習計画を検討するとともに、模擬患者演習等を活用し、学生が苦手な場面への教育を検討していくこととした。

11) 看護過程展開実習：2 年次前期

伊東朋子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターで実習を行う予定であったが、コロナの影響で臨地実習は実施できなかった。事例患者をグループ別にビデオ視聴し、看護の対象である人間を映像と教員の説明で理解し、看護計画を立案することを実施した。看護過程を段階的に記述できるように、Zoom のグループワーク機能と個別指導にて実施した。事前学習として病棟別の疾患については病棟毎に調べ、実習に臨んだが、事例の変更があったため、該当する疾患を調べた学生の資料を共有し、疾患の理解を深めた。記録に関する個別指導時間が今回は確保できたことにより、思考が深まったという利点もあった。次年度は、コロナの影響で 1 年次に 2 日間しか臨地実習を体験していない状況があるため、臨床側との連携を密にし、教育体制を整えていく。更に、学習した期間から看護過程展開実習までの期間が空いてしまうため、実習前の教育時間を確保し、記録記載方法と指導者への報告方法について指導し、日常生活援助の実践力を修得できるよう手順を体得させる。計画を再検討し、学生の負担にならない意義ある実習を目標とする。

12) 看護理論：2 年次生後期

伊東朋子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、山田泰子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのかを教授した。災害看護の視点から、異文化理解の視点を持つレイニンガーを含め 9 名の理論家を中心に教授した。グループワークでは、自分たちで興味ある理論家を選び、プレゼンテーションを行い、理解が深まるよう全体討議した。最終レポートとして、学んだ 9 名の理論家について、理解したことをまとめる作業を行うことで様々な理論が理解できるよう組み立てた。次年度

は、理論の分野で著名な筒井先生の講義も取り入れ、理論に興味を持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

教育方針

成人・老年看護学領域は、成人看護学と老年看護学の二つの領域を合わせてシームレスにとらえ「統合された存在である人間」を検討する看護学領域である。本領域では、AYA 世代から老年期まで、死を含めてこのライフステージにある人々の看護を教授する。方法として、概論、各論、演習を科学的な理論と知見、およびデモンストレーション、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの二つで展開する。このプロセスを経て、臨床実践の基礎となる臨地実習を結実させる。この中で特に全ての科目の知識と技術の修得に共通して根幹となる「対象の理解」については、教員の臨床経験、小説の名場面や名言、歴史的事実、社会現象、事件などを積極的に解説し、学生が自身にとって未知である大人や老年者への想像力を高めることができるようにし、「人が生まれて死ぬ」ことへの洞察や共感を養う。これらをもって、人生の意義を思考して自身の看護観、死生観を形成し、人々への愛と社会への使命をもって実践する看護師となる学生を育成する。

1) 成人看護学概論（立川）：1 年次後期

青木和恵、藤村朗子、櫻井敬子

成人看護学概論は、大人（成人）の特徴、健康と疾病の状況などを学び、大人とは何か、さらに個人の人生と社会において大人であることの意味を理解し、これらから成人看護の意義とその方法を学修する授業である。この授業を受ける学生は、多くは 20 歳前後で大人の入り口にある AYA 世代であり、学生にとって大人は未知の存在である。そこで事例や例題の展開で、両親や祖父母など学生の身近な大人を想像できる内容とし、理論や概論を具体的な実感をもって理解できるように進めていった。また歴史小説における名言、古今東西の格言などを多く取り入れ、学生の大人への関心と想像力を高め、自身の世代である AYA 世も含め、その健康問題や看護を理解し、日本社会における医療問題や課題などを理解できるように教授した。

授業を受ける学生は核家族、若者減少という世代背景の中で生活しており、加えて新型コロナウイルス対策によって対面授業をうける機会が少ないという条件も加わり、人との接触の少ない状況が続いている。これらの学生が広く長く深い大人というライフステージを理解することは難しいことである。さらに学生の想像力、関心、感性を高める授業内を検討していきたい。

2) 老年看護学概論（立川）：1 年次後期

福田淑江、岩渕起江

人生の統合の時期にある高齢者をライフサイクルの視点から全人的にとらえること、高齢者を取り巻く環境の理解、健康障害を持ちつつもいきいきと生きる高齢者の健康な生活をサポートするヘルスケアシステムと看護を学ぶことを目標に授業を展開した。

今年度はリアルタイム型の遠隔授業を行った。人生 100 年時代といわれる中で「いきいきと生きる高齢者」に焦点を当て、高齢者の多様性とサクセスフル・エイジング、プロダクティブ・エイジング等の概念の理解とポジティブな老年観の育成を目指した。高齢者を支える制度、権利擁護については、リアリティのある情報媒体を積極的に用い学生の理解を促した。遠隔授業下で、事前学習後に全体発表・意見交換、チャット機能を活用して意見を書くなど、参加型の授業となるよう心掛けた。高齢者の QOL に大きく関わる介護予防については、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルなどによる身体的、心理的、社会的変化をもとに、ヘルスプロモーションの視点で教授した。高齢者におけるエンドオブライフケアについては、高齢者の「終活」を導入として「生ききるまでを支えるケア」としてとらえ、アドバンス・ケア・プランニングの重要性についても教授した。

3) 慢性期看護論：2 年次前期

櫻井敬子、青木和恵

慢性期看護論では、慢性疾患の特徴をふまえ、対象を病とともに生きる生活者として捉え健康の段階に応じたライフスタイルの再編成を促す必要性と、セルフマネジメントを高める援助を理解できるよう事例を交えて講義を構成した。今年度はすべて遠隔授業で実施した。疾患に関連する解剖生理、病態についての内容を設け看護の根拠と関連できるよう工夫した。また、継続した治療、看護が必要となる慢性疾患を持つ対象の災害時の備え、災害時に起こりやすい事象と対処について具体的な事例とあわせて教授している。

緩和ケアにおいてはがん及び非がん疾患の対象の症状に対する看護や、AYA世代の苦悩、患者の意思決定における看護師の役割など臨床の取り組みを交え教授することができた。遠隔授業のため学生からの質問には個別対応と、全体に次回講義で回答の周知をおこなった。学生の授業コメントで他者の疑問が共有できたとの意見を多く得ることができた。今後も患者看護の経験の少ない学生に、患者・家族の生活の場を想起できる事例を取り入れた構成とオンラインに対応した講義をしていく必要がある。

4) 老年期看護論：2 年次前期

福田淑江、岩渕起江、折元美雪

高齢者の健康障害の特徴、健康レベルに応じた看護実践を学ぶこと、入院治療を必要とする高齢者の看護、高齢者に特徴的な災害時の看護について理解できることを目標に授業を展開した。

今年度はリアルタイム型の遠隔授業を行った。高齢者に特徴的な健康障害と看護では肺炎、運動機能障害、認知機能障害に加え、高齢者の有病率の高い高血圧とし、高齢者に特徴的な症状・症候と看護は、老年看護実践論へ移行した。2 年次前期ということもあり、講義は図表等を多く用い、発問、終了時の練習問題など、学生の理解を促すとともに集中力を持続させるよう工夫した。評価は対面でのペーパー試験が難しい状況から毎回の受講後課題、最終レポートとした。受講後課題は講義内容の知識の定着を促す内容とし、レポートは「パーソンセンタードケア」「高齢者の退院支援に向けた意思決定支援」など高齢者看護に重要なテーマを選択した。今後、

遠隔授業のシステムを有効に活用し、遠隔授業のメリットを生かす学習方法の検討が必要である。

5) 老年看護実践論：2年次前期

岩渕起江、福田淑江、折元美雪、大場久美

加齢による生活機能障害に対する高齢者への援助技術、老年期の健康障害と症状経過の特徴に応じた看護過程展開の能力を修得することを目標に講義・演習を行った。事前課題では解剖生理や病態に関する内容に取り組み、1年時の学修内容を想起できるよう講義を実施した。高齢者疑似体験の演習は実施が困難となったため、疑似体験を実施している映像を用いた解説や、昨年までの学生の学びや考察から学生の体験の学びを共有した。また実際に要介護度3の高齢者が補助具を活用しながら自宅で生活する映像を見せ、高齢者の生活についてイメージできるように工夫した。レクリエーションの演習では、ヘルスプロモーションの視点での内容をグループで企画し発表会を実施した。本演習は2年次後期の老年看護学実習Ⅰにおいて実際に施設で実施することを想定し例年実施しており、本年度はオンラインでの取り組みだったが、積極的なグループディスカッションができていた。

次年度は同時期に実施する老年期看護論との講義内容について整理し、オンラインと対面による講義を取り入れ、学生のレディネスに即した講義を展開できるよう検討する必要がある。

6) 老年看護学実習Ⅰ：2年次後期

岩渕起江、福田淑江、折元美雪、荻田明子、大場久美、泥谷朋子

本実習は高齢者センターおよび介護福祉施設等において実習を行い、施設を利用している高齢者とのコミュニケーションや援助の見学を通し地域で生活する高齢者について理解する実習である。本年度は施設における実習内容を一部変更し、例年通り1名の学生が2施設で実習を実施することができた。

高齢者センターの実習では自宅で生活している地域の高齢者の特徴や施設の役割について見学し、学内実習日では施設長の講義を実施した。さらにオンラインによる学生企画のレクリエーションを実施することにより、高齢者の様々な特徴を理解することができ、さらに高齢者と交流を図ることができた。高齢者福祉施設等では、施設を利用する高齢者の役割、施設の役割、施設における看護師の役割等について見学を中心に学んだ。高齢者とコミュニケーションをとることは少なかったが、職員と高齢者のコミュニケーションやケアの実施状況から高齢者の特徴について理解を深めることができた。

次年度も施設と協力し映像や講義を取り入れた実習方法についても検討し、様々な状況に応じた実習が展開できるように取り組んでいく必要がある。

7) 急性期看護論：3年次前期

藤村朗子、荻田明子、三浦由紀子

急性期看護の基本概念、ストレス理論や危機理論など看護理論、疾病や侵襲的治療によって生命危機状態にある患者・家族の特徴について教授した。緊急事態宣言発出を受け、感染

予防の観点から授業形態は遠隔授業(オンタイム)で行った。一部、反転授業により知識の理解が促され、主体的な学修行動につながった。副教材として視聴覚教材を活用し、周手術期看護の実際について具体的にイメージできるよう教授した。次年度は、今年度の授業形態のメリットを踏まえ、学生の学修意欲を引き出す工夫を検討していく。インストラクショナル・デザイン(ID)によってシステマティックに授業設計を行い、LMS を有効活用して能動的学修の促進と学生のニーズに対応できるよう努める。また、教員の ICT や LMS に対する理解や活用力の素養も向上できるよう努め、ICT を活用した新たな教授方法を探求し、実践していく。

8) 成人老年看護実践論：3 年次前期

岩渕起江、櫻井敬子、藤村朗子、折元美雪、荻田明子、大場久美、泥谷朋子、青木和恵、
福田淑江

成人・老年看護学に必要な講義を中心に授業を構成した。成人看護学ではがん看護に関する講義を取り入れた。技術演習を行う予定であった輸液ポンプ・酸素療法・血糖測定・BLS に関しては学内における演習が困難となったため、講義に切り替え、講義資料の内容の充実とナーシングスキルズを活用して実施した。老年看護学では高齢者の手術療法・薬物療法・スキンケアについて講義を実施した。

看護過程の展開については、NANDA-I を活用し演習形式で実施した。看護過程は全員が同一の事例を展開する個人ワークの取り組みを経て、各健康レベルや老年期患者事例グループワークを取り入れたことにより、活発なディスカッションが展開できた。本年度は看護過程の時間数を増やし、アセスメント能力の向上や目標設定について強化する取り組みができた。

本年度は技術演習の実施が困難であったが、各論実習の学内日に講義で使用した資料を活用し技術に関するフォローアップができた。次年度は授業構成を再検討し、さらに実習を見据えた講義や演習を取り入れていく必要がある。

9) 医療安全学：3 年次前期

福田淑江、櫻井敬子、堀田昇吾、外部講師(感染管理認定看護師)

ヒューマンエラーの特性を前提として、国や医療施設における医療安全管理システム、看護実践におけるリスクとインシデント報告制度の意義、事故事例の分析を通して事故防止対策と看護師の役割についての理解を深めることを目標に、授業を展開した。

今年度はリアルタイム型の遠隔授業を行った。放射線による検査・治療が増加傾向にある現状から、放射線業務と医療安全についての講義を継続した。医療安全における感染管理については、コロナ感染対策を含め、前年度同様に臨床の感染管理認定看護師に依頼、動画などの視聴覚教材を活用し感染対策における看護師の役割の重要性、職業感染防止についての理解を深めた。また、事故事例の分析においては、遠隔授業下でもグループワークによるディスカッション、発表を行った。さらに、チャット機能、投票機能などを活用しながら、学生の参加度を高める工夫を行った。課題レポートでは「看護学生として臨地実習において安全な看護を提供するための自己課題に取り組むことにより 3 年次の各論実習における医療安全に関する意識の醸成を目指した。

10) 看護管理学：3 年次前期

青木和恵、福田淑江

医療組織の中で看護部組織と各種チームを運営し、多職種チーム医療のリーダーおよびメンバーとして、質の高い看護実践を展開できることを目的とし、加えて修得した知識によって、学生自身が医療者として自身のキャリア形成を検討できることを目指した。まず日本の医療の現状と経済の状況を解説し、つぎに組織論として、日本の組織の形態と特徴、医療組織の形態と多職種チーム医療の特徴について説明し、看護部門における Governance、環境管理、人材育成、労務管理、患者管理、安全管理などを解説した。これらを通して、看護管理とは何かを考察できるように進めた。多職種チーム医療のあり方についてはグループディスカッションを行い、キャリア形成については教員が自身のキャリアアップのプロセスをプレゼンテーションし、具体的に看護管理を実感できるように導いた。

今後はさらに教員自身の経験や事例を取り入れ、積極的なテーマディスカッションなどアクティブラーニングを推進し、学生にとって実感の薄い遠い存在である「管理」というものを身近に感じられ、得た知識が臨床実践で役立つように進めていきたい。

11) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3 年次後期

藤村朗子、櫻井敬子、荻田明子、泥谷朋子

急性期にある患者およびその家族を多角的に理解し、心身の危機的状況下から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの生活過程を整えるために必要な基礎的な看護実践能力を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の 2 施設で実習を行った。2 施設とも臨地での実習を実施することができたが、2 度目の緊急事態宣言後は一部、学内実習となった。学内実習では、周手術期の事例患者の看護について討議・ロールプレイングを行い、急性期看護について理解を深めることができた。また、実践的な経験ができるようシミュレーターによる臨床現場を再現し、看護技術の実践とその後のデブリーフィングを行い、思考過程の向上に焦点を当てて教授した。実習を通して想像力を養いつつ、科学的根拠に基づいた思考でアセスメントすることや患者とコミュニケーションを図ることの重要性を学修できていた。次年度は、学生の知識定着や思考力と判断力、問題解決能力の育成を重視した実習形態を検討していく。また、実習施設とより密接な指導体制を確立し、高い教育効果を目指した一貫性のある実習指導を実践していく。

12) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3 年次後期

櫻井敬子、岩渕起江、大場久美

慢性疾患を持つ対象の健康障害に適応する能力の維持・増進に向けた援助をするための基礎的な看護実践を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの 2 施設で実習を行った。実習期間中に学生とソーシャルワーカー、退院支援看護師とのカンファレンスを実施し多職種連携と患者・家族の支援の実際を知ること、対象の生活者としての理解が深まっている。また実習演習に酸素療法、血糖自己測定を行ったことで、学生からは実践に役立つとの反応を得ることができた。9 月から 12 月までは臨地実習を実施す

ることができたが、1月以降は臨地実習から学内実習とし、事例展開と模擬患者への指導を課題として行い実習目的目標に沿う内容で対応した。

高齢化に伴い成人期の対象の受け持ちが困難であるため、対象の生活過程から発症する経過が思考できるプロセスを作り指導して行く必要がある。また対象の回復が困難な不可逆的な症状と受容のプロセスや慢性期看護の倫理的課題について考える機会を臨地実習指導者と連携をして指導を行っていく必要がある。

13) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3年次後期

青木和恵、櫻井敬子、岩渕起江、折元美雪、荻田明子、泥谷朋子

人生の終末にある対象患者を全人的に理解し、苦痛を緩和し、患者が自身の終焉と向き合い、臨終までをより良く生きるための看護実践を学修することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の2施設で実習を行った。学生の受持ち患者は、主に加齢による疾患とがんの患者であった。学生にはまだ死生観などが形成されない状態であったが、その状態に適する受け持ち患者を選択した。2021年の1月に入り、新型コロナウイルス感染症対策による二度目の緊急事態宣言発布によって実習方法の変更を余儀なくされた。災害医療センターの実習は学内実習に変更した。立川病院では、学生が担当患者に直接接することなくカルテと臨床指導者などから情報収集して看護計画を立案し、これに基づいて臨床指導者が患者に実施し、その結果を学生に返すという変則臨地実習を実施した。この変則臨地実習では、学生が実際の病院という場に存在した上で時間をかけて深く丁寧に学修することとなり、通常実習よりも思考力が養われる結果を得た。今後はこの臨地実習の効果を明らかにし、通常の臨地実習にも取り入れていくことを検討したい。

14) 老年看護学実習Ⅱ：3年次後期

福田淑江、岩渕起江、折元美雪、大場久美

病とともに生きる高齢者を全人的に理解し、健康回復の促進に必要な基礎的な看護実践能力を身に着けることを目的に、今年度は緊急事態宣言を受け臨地実習と学内実習のハイブリッド型実習を行った。臨地実習は、厳格な感染対策の中、国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの2施設で行った。実習初日を学内日に変更し、感染対策、看護技術、事前学習などレディネスの確認を行った。

学内実習においては、臨地実習に近づけるため、バーチャルシミュレーションとして vSim を活用し、複数事例について観察、アセスメント、そして看護介入を vSim で体験、実施後にデブリーフィングを行った。また、模擬事例に追加情報を加えながら、経時的な変化を設定し看護計画の立案、ロールプレイによる実施、計画の評価・修正と看護過程を展開した。ロールプレイ後は、デブリーフィングを通して学びを深めた。臨地実数でなければ体験できない看護過程の「実践」の部分、vSim、ロールプレイを活用し、コミュニケーションや観察を通じて対象の確認をするプロセスを学ぶことができた。また、デブリーフィングを通して体験の意味付け、思考の整理につながった。

15) 看護職とキャリア形成:4 年生後期

青木和恵

看護が専門の職業であることの意義の一つに、看護のキャリア形成という側面がある。看護におけるキャリア形成とは、もちろん生涯学習や自己啓発という要素もあるが、これらのみではなく、自身の看護観やビジョンを実現させることによって、看護を進歩させていくという大きな機能がある。この授業では、まずそのことを明確に解説し、自身の医療人としての人生にキャリアがいかに重要であるかを理解できるように教授した。その上で、看護部長、看護師長などいわゆる縦のラインでキャリアを積む看護師、NP やがん専門看護師など横のラインでキャリアを開拓している高度実践看護師、さらに厚労省などで医療行政を動かす行政看護師、看護を職業として独立起業させている看護師、企業看護師などさまざまな看護師の形を紹介し、自身の将来を検討できるように教授した。最後に担当教員が自身のキャリア形成の歩みをプレゼンテーションした。この授業が受講した学生のキャリアビジョンの形成と実現に役立つことを期待する。今後も学生の将来に生きる授業となるように、多くの実例を取り入れた内容にして進歩させていきたい。

【小児看護学領域】

教育方針

あらゆる発達段階および健康状態にある子どもと家族を理解し、小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。小児各期の子どもとその家族やそれらに影響を与える社会的環境も含め、小児看護学として位置づけ、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の科目で構成している。

1) 小児看護学概論：2年次後期

久保恭子

小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および機能を学び、現代の小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。

講義・演習内容は小児各期の成長・発達段階等について小児看護に必要な理論、現代の小児看護・保育の重大な課題である子どもの虐待・発達障害・食物アレルギー、子どもの移植医療や子どもと家族を支える法律、施策についてである。今年度は Zoom による遠隔講義が半分以上であり、十分なディスカッションや演習が行えず、3 年次の小児看護実践論で強化をしていく必要がある。

2) 小児看護学実践論：3年次前期

久保恭子 坂口由紀子

小児看護学概論等で学んだことや健康な子どもの理解を基盤に、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響の理解及び健康障害のある子どもと家族がセルフケア能力を高め、ウェルビーイングの実現を目指した看護をするための基礎的知識と援助方法が学べるように遠隔による講義を実施した。本年の課題としていた子どものフィジカルアセスメントの学習が DVD 等による

視覚での学習となり、小児看護学実習の期間に学内演習により補強した。次年度の課題として、引き続きフィジカルアセスメントの演習の実施、実習で受け持つことの多い人工呼吸器を装着時の子どもの看護の強化を図りたい。

3) 小児看護学実習：3年次後期

宋戸路佳 久保恭子 非常勤助手

病院あるいは家庭で療養・生活している子どもと家族の健康上の問題を解決するための援助を通して小児看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことを実習目的とした。今年度は、感染症蔓延の影響により、実習施設、Zoom、学内を組み合わせ実習を行った。保育園実習は全期間をとおして中止となった。そのため、子どもとかかわったことがないあるいは、子どもが苦手という学生もいるため、子どもを想起できるように映像資料の活用を行った。

病棟での実習が実施できた施設では対象理解が深められるようにし、子どもの成長発達、個別性に応じた看護実践につなげられるように支援した。また、実習指導者とも連携し、学生の理解進度に応じて看護の方向性がずれないように調整を行った。病棟実習が実施できない場合は、学生1名につき1事例を展開し、シミュレーション演習を組み合わせ子どもや家族の理解が深まり、全体像をとらえて実践につなげるようにした。実際の子どもや家族とのかかわりではないため、難しい点も多かったが、隣地での見学実習等と組み合わせることで理解が深まったと考える。昨年度に引き続き、フィジカルアセスメントの視点が弱かったため強化していく。

4) 看護教育：4年次後期

久保恭子

日本の看護教育の変遷、諸外国と日本との看護教育の相違について、看護師としての生涯学習の必要性について教授を行った。看護教育を学ぶ意義が理解できる学生が少なく、卒業研究の締め切り時期と重なったこともあり、学生が集中をして講義に参加することが難しい状況であった。今後、学生のニーズを把握しつつ講義を展開するように努めるとともに、開講の時期の検討も必要である。

5) 災害看護Ⅰ（立川）：1年生前期

久保恭子

災害看護学の導入と救急法・包帯法の講義・演習を行った。今年は遠隔講義であったが災害時の映像等を活用しながら学問への興味関心を高めるように仕向けた。包帯法、救急法は学内での演習はできなかったが、Zoom上にて学生の手技の確認を行った。

【母性看護学領域】

教育方針

母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。科目は母

性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。看護実践力の育成をめざし、妊娠・分娩・産褥・新生児期の母児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。

本年度はコロナ禍により対面授業が実施でき難い中で、テレビ会議システムである Zoom を用いて授業を実施した。母性看護に関心を持ちアクティブに学習に取り組めるように、グループ討議やフィールドワークや妊婦体験学習、リモートでの看護技術演習、シミュレーションの実施などの工夫を行い、目標達成ができるように授業を展開した。

1) 母性看護学概論：2 年次後期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

本科目の目的は、女性の性と生殖に関わる健康をリプロダクティブヘルス・ライツの視点からとらえ、母性各期における援助法および母性看護の役割について認識を深めることである。プロダクティブヘルス・ライツ、セクシュアリティ、母性看護の対象、ライフサイクル各期の看護、母子保健統計の動向、母性看護の法整備等について教授し、終了時に復習として小テストを実施した。

女性のライフサイクル各期の健康課題と看護では、具体的な学習課題を提示した。グループワークを経て全体発表で学びを共有した結果、講義内容の理解がより深められた。

個別学習では課題レポートを課し、立川市子育てひろばでのフィールドワークや学内での妊婦体験や自分の基礎体温測定結果の分析を行った。個々に選択した課題に積極的に取り組み、その内容を反映したレポートが全員から提出された。

2) 母性看護学実践論：3 年次前期

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

本科目の目的は、妊産褥婦および新生児と家族へ支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことである。講義と演習で構成した。Zoom を用いたリアル型講義では、妊婦事例や産後の母児事例を提示し、経過に伴う身体的・心理社会的変化が具体的にイメージできるようにした。

演習は、基本的看護技術の修得と看護過程の展開である。コロナ禍の中で、「新生児の健康診査」「沐浴」の技術は、自宅で技術の練習できるように工夫した。事前に演習テキストと新生児モデルを学生宅に送り、グループ毎に Zoom による教員の説明と演示の後に、学生に手技を実施してもらい確認した。「沐浴」技術の習得度評価は、学生の撮影した動画を再生しながら教員と学生で評価する双方向性授業で行った。合格点 80 点には 85%の学生が到達した。未到達学生には学内で直接指導し、全員が目標達成できた。この指導方法による技術到達の可能性が実証できた。

看護過程の展開では、紙上事例に対する個人学習とグループ学習の結果、アセスメントの視点と情報の関連づけ、診断のポイントへの理解が深められた。

3) 母性看護学実習：3 年次通年

衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子

実習の目的は、妊産褥婦および新生児とその家族の健康課題を査定し、健康を維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことである。

臨地実習は、4 施設で展開した。コロナ感染対策下で受け入れてもらえた施設では、正常な経過を辿る褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を学生 1 人当たりほぼ 2 組の母児に実施できた。健康状態の観察、授乳の介助、新生児の沐浴等の実施、保健指導の見学ができた。教員は受け持ち事例のケア実施ができるように、臨床指導者と連携しながら個別に指導できた。他方、受け持ちができない施設での臨地実習では、初産の褥婦事例と経産の褥婦事例を

自作して、アセスメント・診断からケア実施計画、評価が履修できるように学内実習で展開した。ケアの実施については、シミュレーションを個々の学生に実施し、それを動画に撮って、ケアの在り方を検討した。加えて、産婦の分娩経過の観察と産痛緩和ケアについて検討する機会を組み入れた。

全体的な評価として、中核的な内容については全員の学生が目標達成に至ったと考える。

4) 疾病と治療Ⅳ：2 年次前期

衣川さえ子、小田金 哲広、榛澤 望

本科目の目的は泌尿器系、生殖器系、内分泌系の器官における主要な疾患について、病気のプロセスと病態生理、症状、診断の基準、検査データ、治療方法、予後等を理解することである。

講義は、Zoom を用いたリアル型授業、および録画動画の配信による授業等で実施した。

講義内容が具体的にイメージできるように、DVD 等の視聴覚教材を活用して授業を展開した。既習の解剖生理学を想起させながら、疾病による形態・機能の変化や病態を理解できるように資料を作成した。その疾患と関連する健康問題を提示するなどして学生の関心が高まるように工夫した。さらに、婦人科診察で用いる陰鏡の提示を行うなど、リアリティをもたせて実践的に講義を展開した。学生の理解度を確認するために小テストを実施し、知識理解の定着を図り、一定の成果が確認できた。

【精神看護学領域】

教育方針

災害時も含めた様々な日常生活場面における精神保健、及び身体・知的・精神障害を持つ人々のセルフケアの回復・維持・増進にむけた看護展開に必要な知識・技術・態度を、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

1) 臨床コミュニケーション論：2 年次前期

村松仁、田野将尊・小川賀恵

治療的コミュニケーションの必要性和効果を理解し、治療的コミュニケーションを活用するために必要な知識と技術、態度を総合的に学修することを目的とした。

本年度は、COVID-19 対応のため web による遠隔講義を行った。講義に合わせ、コミュニケーション技術に関する資料映像の視聴を通し治療的コミュニケーション技法の理解は出来ていた。また、プロセスレコードについては、これまでの実習体験から自己のコミュニケーションの振り返りを行うことで、自己のコミュニケーションの課題を検討することができた。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニッツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。

次年度は、COVID-19 対応に則しながら、コミュニケーションの技術については対面での講義を行い、治療的コミュニケーションの学修が充実するよう、講義を行いたい。

2) 精神看護学概論：2 年次後期

村松仁、田野将尊、小川賀恵

精神健康の定義や精神機能、精神発達、精神の危機とその反応、精神医療と精神看護の歴史的背景と今日における精神看護の課題の理解等を学ぶことを目的とした。

本年度は、COVID-19 対応のため web による遠隔講義を行った。講義内容は精神健康(こころの健康)の定義、ライフイベントにおける精神保健、精神構造と機能、ストレスとその対応、精神医療と看護の歴史的背景、医療における精神障害者の人権擁護、精神保健福祉法などについて、資料映像の視聴も交え講義を行った。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニッツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。

次年度は COVID-19 対応に則しながら、可能な限り対面での講義を行い、精神看護学の基礎的な知識の理解が促進されるよう、講義を展開したい。

3) 精神看護実践論：3 年次前期

田野将尊、村松仁、小川賀恵

精神障害及び精神的健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患の特徴と治療やリハビリテーション、利用できる社会資源、精神症状の観察ポイントとアセスメント、援助方法などについて、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護展開が学べるように看護過程を展開させ、実際のアセスメント力と看護計画立案に係る思考力の向上に努めた。また、災害時のケアの実際、心的外傷後ストレス障害やレジリエンスなど、災害時と関連する内容についても理解を深められるようにした。

本年度は COVID-19 対応のため web による遠隔講義が中心となったが、各授業の最後にミニッツペーパーによって講義内容の学びと共に講義内での疑問点を記載してもらうことにより、次の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。

次年度は体験学習やグループディスカッションなどのアクティブラーニングの充実を図り、看護実践力の向上につながるような講義を行いたいと考えている。

4) 障害者看護論：3 年次後期

田野将尊、村松仁、小川賀恵、外部講師

身体・知的・精神の三障害の概念や特性、障害を持つ対象と支援方法について理解できるように、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。また、障害者を取り巻く環境や政策、制度についても理解を深められるように努め、障害者の権利擁護や社会の在り方についても看護の立場から考えられるように授業を行った。神経難病や進行性筋ジストロフィー、重症心身障害、精神障害・知的障害を抱える対象に対する具体的な看護実践や支援方法については、臨床で看護を実践している専門家を講師として招き、実際の看護体験に加えて医療の現状や課題についても考えられるよう工夫を行った。

本年度は COVID-19 対応のため web による遠隔講義が中心となったが、各授業の最後にミニッツペーパーによって講義内容の学びと共に講義内での疑問点を記載してもらうことにより、次の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。

次年度も今年度の内容を継続し、障害者を持つ人々への看護について学修を展開したいと考えている。

5) 精神看護学実習：3 年次後期

田野将尊、村松仁、小川賀恵

精神に障害をもつ人を心理社会的・精神的・身体的側面から全人的に理解し、セルフケアの回復に向けた基本的な看護の検討および技術を身に着けることを目的として、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、公益財団法人井之頭病院を実習施設として実習を行った。

本年度は COVID-19 対応のため、施設実習時間の短縮や学内実習への変更などを要したが、施設見学や実習指導者からの web による遠隔指導により精神医療の実際を知ると共に、入院治療から地域精神保健の現状や課題等について考えることができた。

また、模擬事例により看護過程を展開し、学生が模擬患者となり計画の実践・評価を行った。さらに、全ての学生がプロセスレコードを用いて自己洞察を行い、自己の看護の傾向について気付きを得る機会を設けた。模擬患者の体験により患者視点から看護を考えることができ、精神科看護の視野の広がりを得ることが出来た。

次年度は今年度効果的であった方法を加味し、学生が知識と体験を結び付けられ、思考力や実践力の向上につながる効果的な実習方法を検討していきたい。

6) チーム医療論：4 年次前期

村松仁、田野将尊、小川賀恵、外部講師

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種（病院長、看護部長、診療部長、薬剤部長、地域医療連携係長）を外部講師として招き、実際のチーム医療の展開について教授した。

今年度は COVID-19 対応のため web による遠隔講義を行った。昨年行ったグループワークは行わなかったが、臨床の場でのチーム医療の実際について、病院の様々な立場にある外部

講師の講義を通し、実際のチーム医療のあり方と課題について検討することができていた。

次年度も今年度の内容継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したい。

【在宅看護学領域】

教育方針

在宅看護学領域は、統合分野である地域看護学、在宅看護学、および災害看護学に関する科目を担当している。これらの科目を通し、保健・医療・福祉を総合的に学び、様々な健康レベルの対象者に対して、継続看護の重要性を学ぶことを目的とした。在宅看護学では、地域包括ケアのもと、住み慣れた場でその人らしい生活が継続できるよう支援する在宅看護の役割を理解し、多職種と協働し、対象のセルフケア能力を高めるための知識、技術および態度を身につけることを目指した。

今年度は4月から遠隔授業となり、科目の目標を達成するために授業方法や評価について再検討を行った。在宅看護学実習は、全て学内実習演習となったが、実習目標にそって演習を組み立て実施した。遠隔授業では、パソコンを通して資料の共有やディスカッションなど、限られた教育環境の中でも効果的な授業が実施できることを経験し、授業形態のひとつとして活用したいと考えている。

1) 在宅看護実践論Ⅱ：4年次前期

桜井 礼子、テイラー栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

療養者・家族が安心・安全な療養生活を継続するための、在宅療養環境と在宅ケアシステム、地域社会の中での看護支援の展開と連携の方法を理解することを学習目標とし、「地域診断」演習と「在宅看護過程の展開」演習を行った。「地域診断」では、地域における看護の継続と連携の理解を目指して、地域診断の方法、地域包括支援センターの役割、地域特性の理解と健康課題について演習を実施した。「在宅看護過程の展開」では、訪問事例を2事例提示し、在宅看護学実習の記録用紙を用いて、看護過程を行い、情報の整理とアセスメント、エコマップの作成、看護計画の立案を行った。

次年度は、「地域診断」演習は、地域の情報収集の方法や地域のネットワーク・多職種・多機関との連携・協働への理解を深めること、また、「在宅看護過程の展開演習」では、看護過程の展開と訪問時の看護計画についてケアマネジメントの内容を充実させ、看護実践の演習を加えて、在宅看護学実習の学びにつなげたいと考えている。

2) 在宅看護学実習：4年次前期

桜井 礼子、テイラー栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

在宅看護学実習は、訪問看護ステーション2週間と地域包括支援センター1日の実習予定であったが、COVID-19の影響により学内実習演習となった。実習の目標を達成できるように、実習で学ぶ内容を演習に落とし込み、教員間で吟味し演習プログラムを組んだ。個別課題とグループ課題を作成し、個々に指導が行き届くように、全体を2クラスに分け4名の教員で担当し、

2 週間(10 日間)の演習を実施した。また、訪問看護提供システムについては、訪問看護ステーションの管理者に直接説明をしてもらうなどの工夫も行った。実習では受け持ちの看護過程の展開を行うが、1 事例を用いた看護過程の展開は 2 日間かけて演習を実施、さらに在宅で特徴的な小児・精神・認知症の事例を用いた演習を行った。また、多職種連携ではサービス調整会議の場面を想定した演習なども行った。時間をかけて事例に取り組むことで、対象への理解や看護実践などの学びが深まっていたのではないかと考える。

次年度は、感染状況によるが、実習施設での実習と学内実習日を上手く活用して、今年度の演習の内容を活用して、さらに実技演習も加えた内容にしたいと考えている。

3) 在宅看護学概論：3 年次前期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

在宅看護学概論では、地域で生活する療養者とその家族の療養生活をイメージし、そのケアニーズを理解すること、また、それらを支える制度や社会資源と、在宅ケアマネジメントにおける看護師の役割、および多職種との連携・協働について理解することを目指した。遠隔授業となったが、訪問看護のイメージや在宅で療養する人々とその家族のニーズが理解できるよう DVD などの映像を活用するなど教材を活用した。また、地域包括ケアシステムのもと、対象者個々が抱える健康問題にそった支援方法や在宅ケアを取り巻く現状と課題に対して、特に、介護保険、医療保険の仕組みと医療・介護の連携、地域包括支援センターや地域ケア会議の役割と機能などを理解することで、学生が問題解決の方法を考えることができることを目指した。

次年度に向けては、保健医療福祉制度の理解を進めるとともに、地域で生活する療養者とその家族に対する訪問看護の必要性および社会資源の活用方法について理解を深め、退院支援などの継続看護の重要性を理解してもらい、各論実習の学びにつなげたいと考えている。

4) 在宅看護実践論Ⅰ：3 年次後期

テイラー 栄子、桜井 礼子、小山 珠美、吉川加奈子

在宅療養者・家族が安心して安全に日常生活を営み、医療的ニーズに応じた在宅ケアの実践方法を学ぶことを本科目の目標とした。

COVID-19 のためにシラバスを大きく変更した。今年度は在宅看護実践論Ⅱで行っていた看護過程の展開をⅠで行うことで、学生の思考力の強化を図り、在宅看護実践論Ⅰで行っていた医療依存度の高い療養者の演習を、4 年次の在宅看護実践論Ⅱで行うことにした。今年度は、2 事例を用意して学生が在宅療養者・家族をイメージしながら在宅での生活支援技術・医療依存度の高い療養者への支援が学修出来るように構成した。1 事例は、加齢とともに要支援 2 から要介護 5 までの経過を追いながら、生活しながら療養するという視点から学べるようにした。また、多職種連携・協働の疑似体験を通して学べるように、学生が各多職種の役割を担い、グループディスカッションとサービス担当者会議のシミュレーションを行った。学生からは今までの知識が統合されたとの評価があった。来年度も引き続き、社会資源や学生の苦手とする介護保険制度について理解を深めていけるような講義・演習を構築していきたいと考える。

5) 地域看護学概論：2 年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

地域看護学概論は、継続看護の必要性和地域で活動する看護職に求められる役割と、多職種多機関との連携・協働とネットワークづくり、ケアマネジメントの基礎を学ぶことをねらいとしている。地域で生活する人々の健康と QOL を高めることを主眼とする地域看護活動について理解し、地域において展開されている看護活動の全体像と基本的な考え方について学習すること、および各ライフステージにおける健康指標と健康課題について理解することを目標に、領域メンバーで分担をして講義を行った。地域で生活する人々の健康を支える看護職の役割について学生が自ら考えることを大切に、自分が住む地域の包括支援センターを調べる事前課題や、自分の考えをまとめるための事後課題などの工夫を行った。また、地域で実施されている保健活動については、ライフステージを基本として、段階的にポイントを絞った内容とした。

次年度は、地域で展開されている保健に関する制度について理解をし、看護活動の実践について学ぶことができるように講義内容を検討していきたいと考えている。

6) 家族看護学：2 年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

家族看護学は、家族の役割機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、自らの家族観を見つめ直すこと、また、家族を単位とし様々な視点で家族をとらえる見方を養い、疾病や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族看護の意義と役割を学ぶことをねらいとした。時代とともに多様化する家族形態、家族のあり方や家族の特性、家族をアセスメントする視点と情報収集の項目を提示し、学生が実習で家族と接する機会が少ないことも考慮し、家族のライフステージや健康危機などの事例を提示して、学生が理解できるよう講義をすすめた。対面と遠隔授業となったことから、授業ごとに課題を出しフィードバックし、これまで筆記試験を実施していたが、各授業での課題、演習課題、および看護観と家族看護の事例レポートで学びを評価した。最終レポートをまとめることで、学びが深まったと評価している。

次年度も、学生がイメージしやすい事例を提示しながら、看護職としての家族観、家族のセルフケア機能を高めるための家族看護の基本的な考え方や役割について学んでほしいと考えている。

7) 疾病予防看護学：2 年次後期

テイラー 栄子、桜井 礼子、小山 珠美、吉川 加奈子

一次予防に焦点を当て、ヘルスプロモーションを通して健康増進法にいたる変遷、諸理論を基盤とし健康教育を理解し、企画することを目標とした。

「理論」を実際に活用することで身近にとらえ、考えるきっかけとなるように、Precede-Proceed Model を講義・演習に取り入れた。Precede-Proceed Model について講義後、実際に事例を基に個人で取り組み考える機会を作ること、学生自身の不明な点を明確にすることができた。次のステップでは、健康課題に対してグループごとに Precede-Proceed Model に沿って、地域における健康課題の全体像を把握できるようにした。また、健康課題の病態生理のシート作成、

統計データからの情報収集から健康教育の企画・立案、評価とした。健康教育の発表では、学生が評価者になり積極的に他の学生の発表を聞き、活発な質疑がなされた。これらにより、学生は理論を健康教育に活用することを学び、看護職が対象者の立場になって健康教育を行う意義を学修することができたと考える。

来年度は演習科目となり時間数が増えるため、学生がヘルスコミュニケーション・エンパワメントを保健指導・健康教育にどのように効果的に活用していけるのか考えていく科目としたい。

8) 自立支援教育論：2 年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

自立支援教育論では、慢性疾患や障害などのさまざまな健康課題を抱えた対象者に対して、課題解決に向けたセルフケア能力や自己効力感を高めるための理論を活用し、意思決定支援、自立支援へとつなげる手法を学ぶことを学習目標とした。また、自立支援のための情報提供と行動変容のプロセスを理解し、効果的な個別健康教育・保健指導の方法について理解することを目指した。講義は、全て遠隔授業とし、授業の中で課題を提示して個人ワークとその成果を発表したり、事後課題により学びの振り返りができるようにしたり、事後課題については次回の授業でフィードバックを行った。また、保健指導の演習では、教員が対象者役となり、情報収集のロールプレイをしたり、保健指導の計画立案についてはグループワークを行った。さらに最終レポートの課題として保健指導についてのポイントをまとめることで学びが深まったと評価している。

次年度は、学生がこれまでに学習してきた知識や生活体験を踏まえ、自立支援教育として保健指導のスキルについて、学生が思考し理解を深めていけるような演習をしたいと考えている。

9) 災害看護学Ⅰ：2 年次後期

桜井 礼子、福田 淑江、テイラー 栄子、小山 珠美、吉川 加奈子

災害看護学Ⅰでは、災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策および災害時の救護活動の方法と、災害サイクルに応じた看護の役割を理解し、変化する状況下で多職種と連携・協働しながら被災者の状況や特性に応じた看護活動を展開するための基礎的知識・技術・態度について学習することを目標とした

災害の種類と特徴、災害が地域で生活する人々にどのような影響を及ぼすのかを理解し、災害サイクルにそって、発災から急性期、慢性期等の各期における災害への組織的な対応と看護職が支援する内容について学習を進めた。例年、災害医療センターの防災訓練に参加していたが、COVID-19 の影響で防災訓練が中止となった。このため、国立病院機構災害医療センター看護師で、DMAT インストラクター2 名の方に講師を依頼し、災害訓練の代替となる講義・演習と、講師の経験の講話をお願いした。災害拠点病院としての発災直後の対応や医療者の役割について理解を深める機会となった。

次年度も、災害訓練の参加を通して、被災者への対応および支援者としての役割に関する学生の理解がさらに深まるよう、国立病院機構災害医療センターと連携していきたいと考えている。

【総合看護学領域】

教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標 100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡しの位置づけである統合実習で確認する。最終的な実習であるのでコロナ禍であっても学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

1) 政策医療論：2 年次後期

山西文子、得津 馨、武田純三

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、変化の激しい医療ニーズに答えていくための医療者の役割を考える。また、我が国において全国的に国立病院機構が担っている政策医療について、民間医療では担えない国としての不採算医療、国として責任を担う医療等についての認識を深め、今後の医療の在り方について考え方や対応を広く捉え、専門職業人としての考えや役割などを明確にする。日本の医療提供体制の変化、政策医療ネットワークによって展開する医療の実際、現代医療における諸問題などを講義により学び、初めて知る我が国の医療の実態を数字で分析的に学び、安全・安心な医療の提供体制が超高齢化社会によって医療費が高騰し、脅かされる状況も生じていることも理解し、どのような社会が良いのか、医療がどうあれば良いかを個人的にも考えをしっかりと持つことを狙って、発表し、ポイントをつかむよう意見交換した。

2) NP 論(選択科目)：4 年次前期

山西文子、浦中桂一、他 NP コース修了生

本学大学院においては、高度実践看護(NP)コースを開設しており、NP に関心を持っている学部学生が多いことから開設した科目である。1 学年の殆どが本科目を選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際について概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の方々に活動の実際を話して貰い、後半の 30 分の時間を質疑応答の時間とした。毎回クラス全員が発言し積極的参加型の授業にした。本授業では、クリティカル NP、プライマリ NP、麻酔 NP 等、活動の場もバラエティに富み、看護師としての活動の実際がとても興味深く、最後まで充実感を味わえた。関心が高い学生が選択し、入学して以来このような授業は始めてである。将来はNPになりたいと希望する学生も数名いた。良い反応が多く聞かれた。また、講師であるNPもこの機会を通して自分の実戦を振り返り、整理することの重要性を学んでいる。

3) 看護政策論(選択科目): 4 年次前期

山西文子、石田昌宏、福井とし子、重富杏子

看護行政等に関心の高い学生の選択者は 0 名であり、災害看護学コースとしては開講しなかった。

7. 業績

【看護基盤領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

中山和弘, 瀬戸山陽子, 藤井徹也, 篠崎恵美子, 米倉佑貴, 高木晴良, 戸ヶ里泰典 (2020). 系統看護学講座 別巻 看護情報学 (第3版), 医学書院, 東京.

2. 論文等（原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料）

藤淵俊王, 藤田克也, 五十嵐隆元, 西丸英治, 堀田昇吾, 桜井礼子, 小野孝二 (2021). 放射線診療従事者の不均等被ばく管理の実態に基づく水晶体被ばく低減対策の提案. 日本放射線技術学会誌, 77(2), 1-12.

3. 学会における発表

堀田昇吾, 加藤知子, 草間朋子. 現任看護職に対する放射線に関する教育についてのニーズ. 日本放射線看護学会第9回学術集会, 2020年9月26-27日, 広島.

堀田昇吾. 「看護職者の放射線診療(業務)従事者を指定するためのガイドライン」の紹介と今後の課題. 日本放射線看護学会第9回学術集会, 2020年9月26日, 広島.

西沢義子, 小山内暢, 野戸結花, 太田勝正, 大森純子, 堀田昇吾. 「放射線看護モデルシラバスの活用に向けてーモデル授業 その1 放射線の基礎ー」. 日本放射線看護学会第9回学術集会, 2020年9月26日, 広島.

新川哲子, 森下暁, 大石景子, 村上優人, 牧谷美佳, 野戸結花, 松成裕子, 西沢義子, 太田勝正, 大森純子, 堀田昇吾. 放射線看護の専門性と役割開発ー放射線看護の高教育課程修了生の活動からー. 日本放射線看護学会第9回学術集会, 2020年9月26日, 広島.

田野將尊, 藤村朗子, 久保恭子, 桜井礼子, 岩渕起江, 堀田昇吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組みー指導者・教員・学生の立場からー. 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月12日. 東京 (Live 配信).

藤村朗子, 田野將尊, 黒沢範子, 久保恭子, 桜井礼子, 堀田昇吾, 松山妙子, 岩渕起江, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み. 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020年12月1日～25日. 東京 (Web 開催).

三浦由紀子, 高木晴良, 堀田昇吾, 今井淳子, 江津繁, 高以良仁. 看護基礎教育課程における災害看護オンライン実習の実践報告. 第26日本災害医学会総会・学術集会, 2021年3月15～17日 LIVE, 2021年3月15～31日オンデマンド配信. 東京 (Web 開催).

三浦由紀子, 宮本純子, 鈴木幹子, 山田英子, 松村あづさ, 網木政江, 甲斐真紀子, 夏川知輝, 久野将宗, 前川和彦. 2019年千曲川流域浸水被害における HuMA の災害ボランティアセンターでの一般ボランティア支援. 第26日本災害医学会総会・学術集会, 2021年3月15～17日 LIVE, 2021年3月15～31日オンデマンド配信. 東京 (Web 開催).

鈴木幹子, 三浦由紀子, 山田英子, 弘中陽子, 大里郁子, 尾川華子, 早瀬麻子, 夏川知輝, 久野将宗, 前川和彦, 甲斐真紀子. 2019 年千曲川流域浸水被害における HuMA の災害ボランティアセンターを拠点にした在宅避難者への支援. 第 26 日本災害医学会総会・学術集会, 2021 年 3 月 15~17 日 LIVE, 2021 年 3 月 15~31 日オンデマンド配信. 東京 (Web 開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

堀田昇吾. アクティブ・ラーニング手法を用いた放射線看護教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2019 年度-2021 年度.

高木晴良, 堀田昇吾, 今井淳子. 特別治療食を必要とする人への災害時非常食支援のガイドラインの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2019 年度-2021 年度.

久保恭子, 坂口由紀子, 倉持清美, 鮎澤衛, 岸田泰子, 高木晴良, 穴戸路佳. 保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故の分析と予防対策プログラムの検討. 日本学術振興会科学研究費補助金, 挑戦的研究 (萌芽). 2019 年度-2021 年度.

高木晴良, 堀田昇吾. ICT を活用した健康管理フォームの開発に関する萌芽的研究. 学科特別研究費, 2020 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

高木晴良

- 1) 生物統計学. 早稲田大学教育学部. 2020 年 4 月 - 7 月 (動画配信)
- 2) 統計学. 大妻女子大学家政学部. 2020 年 4 月 - 6 月 (動画配信)
- 3) 統合実習 (医療情報). 帝京大学医学部. 2020 年 7 月
- 4) 健康管理論. 岐阜県立看護大学. 2020 年 10 月-2021 年 2 月
- 5) 情報科学. 帝京高等看護学院. 2020 年 4 月 - 6 月 (動画配信)
- 6) 医療情報論. 東京医療保健大学がん放射線療法看護認定看護師養成課程. 2020 年 9 月
- 7) がんの医療サービスと社会資源. 同上 2020 年 10 月
- 8) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 基礎編 I & II. 杏林大学. 2020 年 9 月 (動画配信)
- 9) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 応用編 I & II. 杏林大学. 2021 年 3 月 (動画配信)

堀田昇吾

- 1) 日本放射線看護学会 広報・渉外委員会 委員
- 2) 日本放射線看護学会 学術推進委員会 委員
- 3) 「医学部における放射線健康リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」講義内容検討委員 (看護)
- 4) 茨城県看護協会 認定看護管理者教育課程:セカンドレベル 安全管理 講師
- 5) 「看護と放射線」テキスト編集委員会 委員
- 6) 東北文化学園大学 非常勤講師
- 7) 日本看護系大学協議会(JANPU) 災害連携教員

- 8) 東京医療保健大学がん放射線療法看護認定看護師養成課程「放射線療法における放射線の安全な取り扱い」講師

三浦由紀子

- 1) 日本集団災害医学会 評議員
- 2) 第26回日本集団災害医学会総会・学術集会. 抄録査読委員. 2021年3月開催
- 3) 第17回日本クリティカルケア看護学会学術集会. プログラム委員. 2021年7月開催予定
- 4) 第17回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 抄録査読委員. 2021年7月開催予定
- 5) 独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 隊員
- 6) 慈生会 野村病院 WOC 看護コンサルテーション

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

高木晴良 (2020). WebClassの利用について. 第2回遠隔授業ツール勉強会 2020年12月9日, 東京

堀田昇吾, 草間朋子 (2020). 放射線診療(業務)従事者指定に関するガイドライン・看護職者. FBNews, 524, 1-2.

【基礎看護学】

1. 著書(翻訳書を含む)

品川 佳満, 伊東 朋子, 橋本 勇人ら共著 (2020). 看護師が注意すべき患者の個人情報取り扱い:「気づかない」から「トキッ」そして「あたりまえ」になるために. 看護技術, 66巻1-12号, 2020, メヂカルフレンド社, 東京.

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

Notsu M, Naito T, Mori K, Ito T, Kai M, Takahashi T (2020). Days spent at home near the end-of-life in Japanese elderly patients with lung cancer:Post-hoc analysis of a prospective study. *Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing*. 2020 Oct 22.

武村雪絵, 渡邊龍之介, 木田亮平, 菅野由貴子 (2020). 交代制勤務を行う看護職員の勤務状況と就業継続を可能とする条件:インターネット調査. 日本看護管理学会誌, 24(1), 164-174.

Taeko Matsuyama(Yamagami), Masuko Saito (2020). Survey on adolescent self-assessment of fertility. *Journal of reproductive psychology*. 6 (2), 20-31.

松山(山上)妙子, 齋藤益子 (2020). 性的価値観の動向と現状および今後の課題. 日本生殖心理学会誌, 6 (1), 44-48.

松山(山上)妙子, 齋藤益子 (2020). わが国の産育習俗・通過儀礼における助産師の役割と今後の可能性. 祈りと救いの臨床 日本「祈りと救いところ」学会誌, 6 (1), 186-193.

3. 学会における発表

大塚風舞希, 天野未悠, 大森清茄, 尾崎未那美, 原由佳, 藤巻美優, 前知里, 山中沙耶, 山梨貴和子, 渡邊彩, 綿貫杏, 岩満裕子, 菅野由貴子, 伊東朋子, 栗林好子, 松山妙子, 山田泰子. 避難所運営時の段ボールベッドの導入状況に関連する要因の検討 ～大規模災害での指定避難所運営経験者を対象とした調査～. 第 26 回日本災害医学会総会・学術集会: 2021 年 3 月 15 日～17 日, 東京 (Web 開催).

田中ひかり, 今村壮貴, 大日向美優, 奥山絵梨, 小澤導稀, 塩原晶銀, 中島里紗, 林香歩, 深澤夢宇馬, 福嶋智, 吉川実来, 松山妙子, 山田泰子, 伊東朋子. 看護大学生を対象とした災害ボランティア活動への参加意欲と災害看護に関する教育との関連の検討. 第 26 回日本災害医学会総会・学術集会: 2020 年 3 月 15 日～17 日, 東京 (Web 開催).

菅野由貴子, 渡邊龍之介, 木田亮平, 武村雪絵. 交代勤務に従事する看護職の労働の実態と交代勤務継続意向およびその条件. 日本看護管理学会学術総会, 2020 年 8 月 28 日～29 日, 金沢 (Web 開催).

田野将尊, 藤村朗子, 久保恭子, 桜井礼子, 岩渕起江, 堀田昇吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した取り組みー指導者・教員・学生の立場からー. 第 40 回日本看護科学学会学術集会: 2020 年 12 月 12～13 日, 東京 (Web 開催).

藤村朗子, 田野将尊, 黒澤範子, 久保恭子, 桜井礼子, 堀田昇吾, 松山妙子, 岩渕起江, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み. 第 40 回日本看護科学学会学術集会: 2020 年 12 月 12～13 日, 東京 (Web 開催).

山田泰子, 田口(袴田)理恵. 母子保健担当保健師の異文化間看護能力尺度の作成. 第 23 日本地域看護学会, 2020 年 8 月 29 日, 30 日, 誌上発表, 大阪 (Web 開催).

山田泰子, 田口(袴田)理恵. 母子保健担当保健師の異文化間看護能力の実態と関連要因の検討. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 13 日, 一般演題(口演), 東京 (Web 開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

伊東朋子. NIRS を用いた ALS 患者の認知レベルの評価とコミュニケーション支援を目指して. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2019～2021 年度

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

岩満裕子

- 1) 非常勤講師「医療人材管理特論」, 早稲田大学大学院, 2020年4月-7月(前期)
- 2) 非常勤講師「対人関係性支援研究法02」, 早稲田大学, 2020年4月-7月(前期)
- 3) 認定看護管理者セカンドレベル講師, コンフリクトマネジメント, 国際医療福祉 2021年1月15日
- 4) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程講師, リーダーシップ, 国立障害者リハビリテーションセンター, 2020年9月16日

- 5) 東京福祉保健財団, 認定看護管理ファーストレベル講師, グループマネジメント, 2020年10月7日, 10月15日
- 6) 医療機能評価事業評価部会員, 公益財団法人日本医療機能評価機構2007年～
- 7) 公益財団法人東京都福祉保健財団 認定看護管理者研修教育課程委員2018年～

松山妙子

- 1) 日本助産診断実践学会 編集委員
- 2) 第3回日本助産診断実践学会学術集会 Web 講演会実行委員, 編集委員
- 3) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(講義), 東京西徳洲会病院, 講師, 2020年9月9日, 9月16日
- 4) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(演習), 東京西徳洲会病院, 講師, 2020年10月7日, 10月21日

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

特になし

【成人・老年看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

青木和恵(2020).身体症状の評価とツール褥瘡. 宮下光令編集. 緩和ケア・がん看護臨床評価ツール大全(第1版). p91-p98, 青海社, 東京.

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

青木和恵(2020). 第37回の本ストーリー・排泄リハビリテーション学会総会開催報告. 日本ストーリー・排泄リハビリテーション学会誌, 36(2)1-7

青木和恵(2021). “がん看護教育の灯を消さない”医療システムの開発. がん看護, 26(1)50-51

Miho Satoh M, Fujimura A, Sato N, Competency of Academic Nurse Educators, SAGE Open Nursing, Volume 6: 1-11. DOI: 10.1177/2377960820969389.

高津 愛結, 前田 奈那子, 安部 菜里, 玉井 夏帆, 小林 美綺, 齋藤 このみ, 松平 明日絵, 由井 愛莉, 横畑 智洋, 渡辺 千華子, 岩渕 起江, 前田 竜耶, 原口 昌宏, 竹内 朋子. エアマットレスに対するずれにくいベッドメイキングの検討—三角法と結び法の比較—. 日本看護技術学会誌, (18), 108 - 114.

泥谷朋子(2021). 大学生の救急車の利用実態及び急病に対する認識・行動に関する調査. 日本臨床救急医学会誌, 24(1), 51-60

3. 学会における発表

糸川紅子, 青木和恵, 水島史乃, 森永美乃. 手足皮膚反応による足底病変の悪化要因の探索 重症化予防アルゴリズム作成の試み. 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会,

2020 年 7 月 23-24 日, 福岡県(Web 開催).

糸川紅子, 新田純子, 磯崎富美子, 赤木郁子, 青木和恵. 看護基礎教育課程におけるがん看護実践を省察する力を育成するオンライン授業の検討. 第 35 回日本がん看護学会学術集会, 2021 年 2 月 27-28 日, 兵庫県(Web 開催).

糸川紅子, 青木和恵. Simple ケアによるストーマ・リハビリテーションのプロセス評価モデル. 第 38 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2021 年 2 月 26-27 日, 福岡県(Web 開催).

福田淑江. 急性期病院における看護補助者の業務内容分析 ―他計的行動観察を通して―, 第 24 回看護管理学会, 2010.8.28, 金沢 (Web 開催).

藤村朗子, 田野将尊, 黒澤範子, 久保恭子, 桜井礼子, 堀田昇吾, 松山妙子, 岩渕 起江, 三浦 由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み(示設). 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12 月 1-25 日, 東京 (WEB 開催)

田野将尊, 藤村朗子, 久保恭子, 桜井礼子, 堀田昇吾, 松山妙子, 岩渕起江, 三浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した取り組み―指導者・教員・学生の立場から―(交流集会), 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12 月 1-25 日, 東京 (WEB 開催)

島田千穂, 藤村朗子, 伊東美緒. 超高齢者への治療の選択支援における患者の意思の影響; 架空事例への回答の分析(示設)), 第 25 回日本老年看護学会学術集会 2020.6.20-21, 島根 (誌上開催)

Miho Satho, Akiko Fujimura, Naoko Satho. Construct of Nursing Faculty Competency, The Association for Medical Education in Europe (AMEE)2020 virtual conderence. 2020.9.9-7 (Web).

佐藤みほ, 藤村朗子, 佐藤菜穂子. 看護系大学に勤務するキャリア初期段階にある教員のコンピテンシー(示設), 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020.12 月 1-25 日, 東京 (WEB 開催)

藤村朗子, COVID-19 は褥瘡管理の在り方をどのように変えるか? スポンサーシップシンポジウム, 第 22 回日本褥瘡学会学術集会, 2021 年 9 月 11~12 日, 神戸 (ハイブリッド開催).

香西慎司, 天杉さくら, 新井寧々, 遠藤尚弥, 木村奈々, 佐藤玉果, 嶋由紀子, 谷口夏菜, 谷澤彩乃, 南出麻智佳, 矢口碧, 荻田明子, 藤村朗子. CBRNE 災害における看護師の認識と備えに関する実態調査(示説), 第 26 回日本災害医学会総会・学術集会 2021 年 3 月 15 日~17 日, 東京 (WEB 開催).

石坂望, 安達晃生, 井手美里, 熊田優貴, 内藤仁美, 西谷侑里子, 原ゆかり, 峯岸千暁, 岩渕起江, 福田淑江, 折元美雪, 大場久美. 高齢者の自然災害に対する情動的備えと自己効力感との関連. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月, 東京 (Web 開催).

今井宗紀, 青木直, 嶋村璃奈, 菅原菜央, 中村純菜, 三神遥香, 谷古宇結那, 櫻井敬子. DMAT 看護師のメンターの有無と職業キャリア成熟との関連. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月, 東京 (Web 開催).

岩渕起江, 特別養護老人ホームにおける看取りに関する現状と課題. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月, 東京 (Web 開催).

折元美雪, 藤村朗子. 救急搬送された認知症高齢者における施設間の情報連携に関する文献検討. 第 25 回日本老年看護学会学術集会, 2020 年 06 月, 島根 (誌上開催).

荻田明子. 周手術期における術後疼痛とせん妄に関するレビュー. 第 16 回 一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会 学術集会. 2020 年 7 月 1 日 (水)~12 月 31 日 (木), 大阪 (Web 開催).

大場久美, 長谷川美香. 平成 28 年熊本地震で避難所運営責任者であった自治体職員の心身の不調とその対処行動. 第 68 回日本職業・災害医学会学術大会, 2020 年 12 月 5 日・6 日, 浜松 (誌上開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

藤村朗子, 荻田明子, 三浦由紀子. CBRNE 災害における看護師の認識と備えに関する研究. 学長裁量経費. 2020 年度

佐藤みは, 宮川祥子, 藤村朗子. 3D 画像と 3D プリント技術を融合した実践的な解剖学知識を高める学習システムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2018 年度・2021 年度

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

青木和恵

- 1) 皮膚のアセスメントとケア. 静岡県県立静岡がんセンター認定看護師教育課程. 2020 年 8 月 28 日
- 2) 医療経済学. 岩手県立大学看護学研究科. 2020 年 11 月
- 3) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会理事. 2009 年 5 月～
- 4) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会理事. 2009 年 2 月～
- 5) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会広報委員会委員長. 2009 年 2 月～
- 6) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ガイドライン委員会委員. 2016 年 2 月～
- 7) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会災害対策委員会委員. 2015 年 2 月～
- 8) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会あり方委員会委員. 2019 年 5 月～
- 9) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術教育委員会委員. 2020 年 5 月～
- 10) 日本がん看護学会代議員. 2021 年 2 月
- 11) 第 30 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 査読委員 2021 年 3 月

福田淑江

- 1) 福井大学医学部看護学科 修士課程 非常勤講師 災害看護学特論Ⅲ 災害時の初動体制, 病院における災害対応訓練の実際, 2020 年 7 月 21 日.
- 2) ヘルスケアサービス 安全管理. 茨城県看護協会 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル, 2020 年 11 月 24 日.

藤村朗子

- 1) 日本クリティカルケア看護学会 専任査読委員 2017 年 9 月～
- 2) 日本アディクション看護学会 査読委員 2019 年～
- 3) 日本エンドオブライフケア学会 編集委員 2020 年 9 月 1 日～
- 4) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員(行動医学研究部)
2019 年～
- 5) 日本看護学会－急性期看護－論文選考委員.2021 年 1 月 18 日～2021 年 8 月 31 日.
- 6) 日本看護学会－看護管理－論文選考委員.2021 年 1 月 18 日～2021 年 8 月 31 日.
- 7) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会事務局.2020 年 7 月～
- 8) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会プログラム委員.2020 年 7 月～
- 9) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会査読委員.2020 年 7 月～

櫻井敬子

- 1) 日本看護学会－看護管理－論文選考委員.2021 年 1 月 18 日～2021 年 8 月 31 日

岩渕起江

- 1) 港区立白金台いきいきプラザ講演 テーマ「自分らしい人生の仕舞い方を共に考えてみませんか」 2020 年 11 月 3 日 5 日

折元美雪

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読委員 2020 年 10 月 13 日～2022 年 9 月 30 日
- 2) 第 17 回クリティカルケア看護学会学術集会 抄録査読委員 2020 年 7 月 1 日～
- 3) 教育支援システム ESS モバイル(看護師版)の解説執筆(老年看護学領域国家試験問題)

泥谷朋子

- 1) 日本救急看護学会 評議員・災害看護委員会
- 2) 第 22 回 日本救急看護学会学術集会 抄録査読委員

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

特になし

【小児看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

佐鹿孝子・久保恭子・宍戸路佳・他（2020）. 医療的ケア児と家族の社会生活を支えるウェルビーイングを支える多職種連携の過程. 小児保健研究, 79 (5), 466-476.

佐鹿孝子・久保恭子・宍戸路佳・他（2020）. 医療的ケア児の社会生活を支える親のエンパワメントの過程. 日本小児看護学会誌, 29, 275-183.

久保恭子・坂口由紀子（2020）. 在宅で暮らす超重症児（者）の長期停電を想定した屋外避難の可能性と母親の心理. 日本重症心身学会誌, 45 (3), 359-362.

久保恭子・坂口由紀子（2020）. 難病児（者）の移行期医療を巡る母親の体験 - ムコ多糖症と類似疾患児（者）の母親を対象に -. 日本重症心身学会誌, 印刷中

山崎達枝・久保恭子他（2020）. 日本災害看護学会ネットワーク活動委員会活動報告 - 平成28年8月～令和元年6月における活動. 日本災害看護学会誌, 122No.21, 38-144

久保恭子・宍戸路佳・濱寄信恵他（2021）. 福島第一原発事故後、避難解除地域への帰還を決めた県外母子避難中の母親の体験. (原著)東京学芸大学紀要総合教育科学系. 印刷中

久保恭子・宍戸路佳・濱寄信恵他（2021）. 保育施設における心疾患児の健康管理・心事故予防対策 - 日韓の保育施設の比較. (原著)保育と保健 27 (1), 41-43.

3. 学会における発表

山本佳世乃, 久保恭子. 熟達教員の在宅看護論実習での同行訪問指導による生活状況の教材化. 第51回日本看護学会看護教育, 2020年9月12日13日, 富山.

小平明日香, 久保恭子. 母乳イメージが母乳育児継続に及ぼす影響 ～35歳以上の母親が感じる授乳満足感に焦点を当てて～. 第59回日本母性衛生学会学術集会, 2020年10月9日10日, 浜松.

濱寄信恵, 久保恭子. 不妊治療終結時の夫婦の体験. 第59回日本母性衛生学会学術集会, 2020年10月9日10日, 浜松.

久保恭子, 宍戸路佳, 及川裕子. 保育施設における児童虐待対応 - 日韓の比較 -. 第59回日本母性衛生学会学術集会, 2020年10月9日10日, 浜松.

久保恭子, 坂口由紀子. 難病児（者）と家族の視点からみた成人期医療への移行と課題. 第67回小児保健学会, 2020年11月4日5日, 久留米.

鈴木一成, 久保恭子, 宍戸路佳. 乳幼児と養育者に対する防災プログラムの検討と課題. 第67回小児保健学会, 2020年11月4日5日, 久留米.

久保恭子, 宍戸路佳, 及川裕子. 日本と韓国の保育施設における危機管理研修の現状と課題. 第56回日本小児循環器学会, 2020年11月23日, 京都.

田野将尊, 藤村朗子, 久保恭子他. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した取り組み - 指導者・教員・学生の立場から - (交流集会). 第40回日本看護科学学会, 2020年12月12日13日, 東京.

田野将尊, 藤村朗子, 久保恭子他. 看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み. 第40回日本看護科学学会, 2020年12月12日13日, 東京.

坂口由紀子, 久保恭子. 原発事故から9年, 避難先での生活再建を選択した子育て期の原発被災家族の現状と課題. 第40回日本看護科学学会, 2020年12月12日13日, 東京.

玄順烈, 久保恭子. 障がい児通所支援に携わる看護師の職務満足度と個人特性・組織特性・環境要因との関連. 第40回日本看護科学学会, 2020年12月12日13日, 東京

久保恭子, 草間真由美. 母親の育児困難感と子どもの特徴・必要な育児支援. 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会 いしかわ金沢大会, 2020年11月28日29日, 金沢.

宍戸路佳, 久保恭子 他. 日本と韓国の保育施設における危機管理研修の現状と課題. 第67回日本小児保健協会学術集会. 11月4日～6日, 久留米 (Web開催).

4. 研究助成および研究成果報告

岸田泰子, 久保恭子. 倫理的問題を含む高度生殖医療における看護教育及びケアの指針の作成. 文部省科学省研究費補助金, 基盤研究 (C). 2019-2022 年度

久保恭子, 宍戸路佳. 保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故予防の分析と予防対策プログラムの検討. 文部省科学省研究費補助金基盤研究. (挑戦的研究 萌芽) 2019-2021 年.

宍戸路佳. 子どもに携わる専門職者を対象にした災害時レインフォースメント育成プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究 (B). 2016-2019 年度 研究報告書作成

日比野直子, 久保恭子. 防災・減災に必要な想定外を想定する力を育てる火災教育プログラムの開発. 基盤研究 (C). 2020-2022

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

久保恭子

- 1) 子育て支援 揺さぶり防止育児講座&子育て相談 (ZOOM), うさちゃんカフェ, 2020 年 11 月 17 日
- 2) CPR AED 講習会 クリーク中村橋, 2020 年 10 月 20 日
- 3) 日本小児看護学会誌 査読委員
- 4) 日本質的研究学会誌 査読委員
- 5) 日本災害看護学会誌 査読委員
- 6) 日本災害看護学会評議員
- 7) 日本アディクション看護学会誌 査読委員

宍戸路佳

- 1) 医療的ケアのある障がい者のグループホームでの看護相談, 練馬区NPO法人グループホームとうもろ, 2020 年 5 月 15 日
- 2) 子育て支援 離乳食講座と子育て相談 (ZOOM), うさちゃんカフェ, 2020 年 10 月 27 日, 2021 年 2 月 9 日
- 3) CPR・AED 講習会. クリーク中村橋, 2020 年 10 月 20 日
- 4) 障害者グループホーム看護部門アドバイザー兼顧問, NPO 法人グループホームとうもろ, 2020 年 4 月-2021 年 3 月

【母性看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

礪山あけみ，衣川さえ子(2020).助産師のための周産期の家族役割獲得の理解と認識を向上させる研修プログラムの開発と評価，日本助産学会誌，34(1)，61-68.

吉田幸枝，衣川さえ子(2020). 2 年課程看護学生の卒業時における医療安全に関するノンテクニカルスキルの特徴－脈点滴管理に焦点をあてた質問紙調査－. 桐生大学紀要，31，25-31.

3. 学会における発表

岩本郁子，衣川さえ子，竹中泉(示説)；医療安全教育を担当する看護教員と臨床看護師の研鑽支援モデルの評価－SNS の活用状況からの分析－，日本看護科学学会第 40 回学術集会，令和 2 年 12 月 1 日～25 日，東京 (Web 開催).

衣川さえ子，岩本郁子，竹中泉(示説)；医療安全教育を担当する看護教員と臨床看護師の研鑽支援モデルの評価－事後調査結果からの分析－，日本看護科学学会第 40 回学術集会，令和 2 年 12 月 1 日～25 日，東京 (Web 開催).

梅津靖江，衣川さえ子(示説)；家族が療養者介護を安全に行うための熟練訪問看護師の教育的関わりの様相，日本看護科学学会第 40 回学術集会，令和 2 年 12 月 1 日～25 日，東京 (Web 開催).

黒澤範子，衣川さえ子，吉田亜希子(口演)；助産師による褥婦の子宮底測定における触診圧の分析，日本看護学教育学会第 30 回学術集会，令和 2 年 9 月 5 日～14 日，岩手(Web 開催).

黒澤範子，衣川さえ子，吉田亜希子(口演)；若年女性の低用量避妊薬・緊急避妊薬の活用に向けた啓発事業・動画教材の開発，第 61 回 日本母性衛生学会学術集会，令和 2 年 10 月 9～10 日ライブ配信，10 月 11～22 日，浜松 (Web 開催).

中澤純一郎・石黒桃子・黒澤範子・吉田亜希子(口演)；妊婦が地震発生時から待機姿勢をとるまでの安全な移動動作の検討，第 61 回 日本母性衛生学会学術集会，令和 2 年 10 月 9～10 日ライブ配信，10 月 11～22 日，浜松 (Web 開催).

藤村朗子・田野将尊・黒澤範子・久保恭子・桜井礼子・堀田昇吾・松山妙子・岩渕起江・三浦由紀子・吉田亜希子・萬弘子・宮川幸子・古田博子・橋本佳美；看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み(示説)，第 40 回 日本看護科学学会学術集会，令和 2 年 12 月 1～25 日，東京 (Web 開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

衣川さえ子. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築. 平成 30 年度科学研究費助成 基盤研究(C). 2018-2020 年度
梅津靖江，衣川さえ子. 訪問看護における家族介護者への医療安全に関する教育プログラム

の開発. 平成 30 年度科学研究費助成 基盤研究(C). 2018–2020 年度
磯山あけみ, 衣川さえ子. 新たな孫を迎える祖父母の家族役割機能を高める学習プログラムの
開発. 令和 2 年度科学研究費助成 基盤研究(C). 2020–2022 年度
衣川さえ子, 黒澤範子, 吉田亜希子. 子育てひろば利用の母児に対するフィールドワーク指
導法の開発. 学長裁量経費研究. 2020 年度

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

衣川さえ子

看護教員養成 e ラーニング 講義「看護教育方法」2020 年度

中堅看護教員ブラッシュアップ研修 講義 2020 年 8 月 11 日東京都看護協会

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉(交流集会); 新たな安全マネジメント Safety- II を看護基礎教
育においてどのように展開するか, 日本看護学教育学会第 30 回学術集会, 令和 2 年 9 月
5 日～14 日 Web 開催

【精神看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

田中留伊 編著 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀恵 (2020). 看護師国家試
験対策 2021 年第 99 回～109 回看護師国家試験問題収録 解いて, わかる! 覚えて合
格! 精神看護学問題集, ピラールプレス, 東京.

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

浅田道幸, 西村基記, 田野将尊, 竹内朋子 (2020). 看護ケアによる N95 微粒子マスクのフィ
ットファクターの推移. 結核 95 (2), 33-39.

加瀬亜希子, 岡村眞喜子, 石橋咲子, 澁澤盛子, 竹内朋子, 岩本郁子, 高橋智子, 酒井一夫,
玄順烈, 田野将尊, 小嶋奈都子, 朝澤恭子 (2020). 看護技術の到達目標の達成に向けた
実習指導者と大学教員との連携会議の取り組み. 看護展望 45 (8), 73-79.

小貫亜希子, 田野将尊, 竹内秀子, 大澤勲, 後藤博道 (2020). 血液透析施設における心理
職の活動と役割. 総合病院精神医学 (印刷中).

3. 学会における発表

馬場美智代, 田野将尊, 大澤勲, 小貫亜希子, 滝澤夕妃, 高橋保子, 後藤博道. 透析非導入
選択時の CKD チームおよびリエゾンチームの役割, 第 31 回日本サイコネフロジー学会学
術集会・総会, 2021 年 3 月 13 日/14 日, 熊谷 (Web 開催).

藤村朗子, 田野将尊, 黒澤範子, 久保恭子, 桜井礼子, 堀田昇吾, 松山妙子, 岩渕起江, 三
浦由紀子, 吉田亜希子, 萬弘子, 宮川幸子, 古田博子, 橋本佳美. 看護学臨地実習にお

ける実習指導者と大学教員の連携を目指した連携会議の取り組み. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 12 日/13 日, 東京 (Web 開催).

伊勢航来, 新井柚花, 安真菜美, 岩崎莉香, 久米朋志, 齋藤鮎夏, 鈴木進吾, 中村早希, 西野えりか, 西山和希, 小川賀恵, 田野将尊, 村松仁. 在宅で生活している精神障害者における防災対策と防災意識の検討-大学生との比較を通して-. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 12 日/13 日, 東京 (Web 開催).

宮島多映子, 村松 仁, 西山忠博, Miyajima 式腹部圧迫法(Miyajima's abdominal pressing technique:MAPT)の臨床応用 自律神経への影響, 日本看護研究学会雑誌, 43 巻 3 号 p397, 2020.09. 札幌(web 開催)

宮島多映子, 村松 仁, 西山忠博, Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用ー男性患者の自律神経への影響ー第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020.12. 東京(web 開催)

滝澤夕妃, 田野将尊, 小貫亜希子, 馬場美智代, 畠山恵美, 後藤博道. リエゾンチームの活動による看護師への効果. 第 23 回日本腎不全看護学会学術集会, 2020 年 11 月 21 日/22 日, 広島 (Web 開催).

田野将尊, 菅谷智一, 森千鶴. 日本の精神科病院における地域生活支援に関する文献レビュー. 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 2020 年 12 月 12 日/13 日, 東京 (Web 開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

宮島多映子, 村松 仁, 西山忠博, Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用・PhaseⅢの拡大-, 日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤研究(C), 2018-2021 年度.

小川賀恵. 地域生活を送る精神疾患患者の心理的災害耐性を高める防災・発災手帳の作成. 日本学術振興会科学研究費補助金. 若手研究. 2020 年度-2022 年度.

田野将尊. 精神科救急・急性期病棟看護師のための地域生活の視点を持った看護プロトコールの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金. 若手研究. 2019 年度-2021 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

田野将尊

- 1) 明星大学人文学部福祉実践学科 非常勤講師
- 2) 医療法人埼玉会埼玉草加病院 非常勤看護師 (リエゾンアドバイザー)
- 3) 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会査読委員
- 4) 第 40 回日本看護科学学会学術集会交流集会 企画者 「看護学臨地実習における実習指導者と大学教員の連携を目指した取り組み - 指導者・教員・学生の立場から - 」. 2020 年 12 月 12 日/13 日, 東京 (Web 開催).
- 5) 東京医療保健大学・立川市共催公開講座 講師 「うつを知ってこころの健康づくり～自分のこころと対話していますか?～」. 2020 年 11 月 19 日, 立川.

小川賀恵

- 1) 東京都立晴海総合高等学校 模擬授業「看護の仕事と心の健康」. 2020 年 12 月 9 日.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 田野将尊 (2020). メディカコンクール 第 110 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 田野将尊 (2020). メディカコンクール 第 110 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 田野将尊 (2020). メディカコンクール 第 110 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 田野将尊 (2020). メディカコンクール 2022 年受験者対象 基礎学力到達度チェックテスト, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成

【在宅看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

- 藤淵俊王, 藤田克也, 五十嵐隆元, 西丸英治, 堀田昇吾, 桜井礼子, 小野孝二 (2021). 放射線診療従事者の不均等被ばく管理の実態に基づく水晶体被ばく低減対策の提案. 日本放射線技術学会雑誌, 77(2), 1-12.

3. 学会における発表

- 秦江梨利香, 佐野仁海, 須賀菜穂子, 関口幸輝, 高野望結, 高橋萌子, 高橋萌乃, 長谷川歩実, 畠山夏帆, 久加奈, 横山季里, 篠崎真弓, 小山珠美, テイラー栄子, 桜井礼子. 首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討. 日本災害看護学会第 22 回年次大会, 2020 年 9 月 28 日～10 月 11 日, 広島 (WEB 開催).
- 河面亜美, 吉川加奈子. 診療所における看護師の ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に対する認識と実施. 第 10 回日本在宅看護学会学術集会, 2020 年 11 月 14 日, 愛知 (WEB 開催).

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献(学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

桜井礼子

- 1) 「ヘルスケアシステム論Ⅱ保健医療福祉サービスの現状と課題」, 大分県看護協会看護管理認定看護師セカンドレベル教育課程, 2020 年 10 月 3 日

- 2) 「指導」(講義・8コマ 演習 2コマ), がん放射線療法看護認定看護師教育課程, 2020年7月, 2021年1月.
- 3) 一般社団法人日本放射線看護学会理事, 2015年4月～ ,
- 4) 一般社団法人日本放射線看護学会広報・渉外委員会委員長 2019.6月～
- 5) 原子力人材育成等推進事業補助金(原子力規制人材育成事業)「医学部における放射線健康 リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」講義内容検討委員(看護). 放射線健康リスク科学教育センター, 2019年4月～
- 6) がん放射線療法看護認定看護師教育課程教員会委員. 放射線看護研修センター, 2020年.

小山珠美

- 1) 一般社団法人日本放射線看護学会広報・渉外委員会 委員. 2015年4月～
- 2) 一般財団法人エマージェンシー・メディカル・レスポnder財団 評議員. 2018年3月～

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

佐野仁海, 須賀菜穂子, 関口幸輝, 高野望結, 高橋萌子, 高橋萌乃, 長谷川歩実, 秦江利果, 畠山夏帆, 久加奈, 横山季里, 篠崎真弓, 小山珠美, テイラー栄子, 桜井礼子(2020). 首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討. 日本オストミー協会三多摩支部「東京三多摩」, No.235, 1-7.